事

例

集

３歳児事例

教師に支えられて，自分で行動して思いをかなえる

５月 20 日（水）　　「でもね，３Ｂ児ちゃんが使ってた」

３Ａ児は，ピンクのスカートをはき，ぬいぐるみをそのスカートの腰ゴムに挟み，手を放しても落ちないようにして保育室内を歩いている。しかし，表情は暗く，困っているように感じた。しばらく様子を見ていると，おんぶ紐でぬいぐるみを抱っこしている友達の姿を目で追ったり，おんぶ紐がかたづけてある棚を何度か見に行ったりしていたことなどから，おんぶ紐を使ってぬいぐるみを抱っこしたいと思っているがことがわかった。そこで，教師から声をかけた。

教師　　「３Ａ児ちゃん。どうしたの」

３Ａ児が教師の近くに来て「あのね，あのね，あのね，あの紐。ピンクの紐・・・」と言いながら，３Ｃ児を指さした。そして「あのね，あのね，３Ａ児ちゃんね。あのね，使いたい」と，自分の気持ちを一生懸命教師に伝えようと声を出した。

教師　　「３Ａ児ちゃんは，お友達が使っているおんぶ紐を使いたいのね」

３Ａ児は頷いた。

教師　　「（ままごとコーナーを指さして）あそこにある，おんぶ紐，誰も使ってないから，使っていいんじゃないかな」

３Ａ児　「でもね，３Ｂ児ちゃんが使ってた」

教師　　「３Ｂ児ちゃん，砂場に遊びに行ったからもう使ってないよ」

３Ａ児は砂場の様子を見たのち，教師の顔を見て，ままごとコーナーに行った。おんぶ紐の前にしばらく立ち，様子を伺っていたが，振り返り教師の顔を見ると，おんぶ紐をもって走って教師のもとに戻ってきた。そして「抱っこにして」と教師に紐を手渡した。教師がぬいぐるみとおんぶ紐を受け取り，抱っこスタイルにすると，笑顔でぬいぐるみを抱きしめた。

考察

課題

・おんぶ紐を使ってぬいぐるみを抱っこしたい　**達成課題**

主体的・協同的な姿

・ぬいぐるみを抱っこしている友達の様子を見て真似したいと思う
・スカートにぬいぐるみをはさみ，おんぶ紐がなくても思う形にならないか工夫する
・自分でおんぶ紐を探す
・教師に自分の思いを伝えようとする
・３Ｂ児の姿を確認する
・おんぶ紐をもって教師のもとに戻ってくる

・教師に「抱っこにして」と頼む

教師のかかわり

・３Ａ児の姿から，思いを推測し声をかける
・３Ａ児の思いを引き出す
・３Ａ児の思いを確認する
・状況を伝える
・３Ａ児が自分で行動できるように願い，見守る

学んでいたと思われること

・友達と同じように，おんぶ紐を使ってぬいぐるみを抱っこしたいと思うが，友達が使っていてすることができない不満　不満足感
・おんぶ紐は最初友達が使っていても，途中で使われなくなることがあること　状況把握
・ままごとコーナーに置かれているおんぶ紐は使っても（とってきても）いいということ　状況把握
・友達みたいにおんぶ紐でぬいぐるみを抱っこできた嬉しさ　満足感

困っている友達を助けて解決
自分の気持ちを切り替えて解決
友達に助けてもらって解決

6月21日（日）「お姫様ごっこ」

３Ａ児，３Ｂ児らがスカート，チュール，冠を身につけて，ままごとコーナーでお姫様ごっこをしていた。ままごとコーナー内にあるデンの下のカーテンの中に隠れたり，デンの上に上ったりして楽しんでいた。そこに３Ｃ児がやってきた。３Ｂ児が「勝手に入ったらダメ」と声をかけるも，お構いなしに家の中に入り，台所にある食べ物を手に持とうとした。すると３Ｂ児が「使ったらダメ」と，３Ｃ児を押した事から，３Ｂ児と３Ｃ児のたたき合いが始まり，３Ｂ児が泣いてしまった。

教師　「お姫様のおうち，なんだか大変なことになっているみたいね」

３Ｂ児　「３Ｃ児ちゃんがたたいた」

３Ｃ児　「・・・・・・・・」

教師　「３Ｃ児ちゃんはどうしたかったの」

３Ｃ児　「・・・・入りたかった」

３Ｂ児　「お姫様のおうちだから，スカートはいてないと入れないもん」

３Ｃ児は何も言えず，黙って食べ物を触りながらうつむいている。教師がどうしたものかという表情で見ていると，３Ａ児がスカート持ってきて黙って３Ｃ児に手渡した。３Ｃ児はスカート受け取り，はいた。教師は「３Ａ児ちゃん，スカート探してきてくれたの」と，声をかけた。３Ａ児は頷いた。

３Ｂ児　「（３Ｃ児ちゃんは）冠とかしてないしダメ」

そこに，３Ｄ児が「ただいま」と，家の中に入ってきた。見ると，スカートははいているものの，冠やチュールは身につけていない。３Ａ児，３Ｂ児，教師はお互いに顔を見合った。３Ｂ児は誰に言うでもなく「いいよ」と言った後，自分から３Ｃ児のそばに行き，「ここがご飯食べるところね」と声をかけ，ままごとコーナーで遊び始めた。

考察

３Ａ児

課題

・３Ｂ児と３Ｃ児のいざこざを止めたい　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・友達の思いを聞き，自分なりに行動する

教師のかかわり

・状況を整理する

・幼児の自発的な気づきを促す

・３Ａ児の行動を認める

学んでいたと思われること

・友達がいざこざを始めると，遊べなくなる　不満足感

・自分の行動を教師に認められた嬉しさ　自己肯定感

・お姫様ごっこの続きができる安心感　安心感

３Ｂ児

課題

・３Ｃ児を入れたくない　**発生課題**

主体的・協同的な姿

・３Ｃ児を押す

・３Ｃ児が入れないように，理由を考える

教師のかかわり

・３Ｃ児の思いを聞く

・教師も困っている様子を醸し出す

・３Ａ児の行動を認める

学んでいたと思われること

・自分は入れたくないと思っていても，周りの友達の中には３Ｃ児を受け入れる友達がいること

他者理解

・初めは嫌だったけど，３Ｃ児を場に入れてもいいと思うことができた

折り合いをつける（まあいいか）

・自分の気持ちを変えなければいけないこと　気持ちのコントロール

３Ｃ児

課題

お姫様ごっこに入りたい　**達成課題**

主体的・共同的な姿

・３Ｂ児に止められてもままごとコーナーに入る

・３Ｂ児といざこざになっても，その場を離れず居続けたこと

・３Ａ児が持ってきてくれたスカートを受け取りはいたこと

教師のかかわり

・思いを言葉で表現できるよう声をかける

・様子を見守る

学んでいたと思われること

・たたいても入れてもらえないこと　思い通りにならない体験

・お姫様ごっこの時は，スカートをはいていないと仲間に入れないこと　状況理解の必要性

・自分を入れたくない友達や助けてくれる友達がいること　他者理解

・お姫様ごっこに加われた嬉しさ　満足感

９月１７日（木）　「これみたいにきれいにしたい」　　教師と一緒にやって解決

数人の幼児が，製作コーナーで，ハートの型紙を使って色画用紙をハートの形をかき，はさみを使ってハート型に切り抜いていた。３Ａ児も友達の様子を見ながらハートの型紙を使って色画用紙にハートの形をかいた。そして，はさみでハートの形に切ろうとやってみるも丸い部分を線の通りに切ることができず，ハート型にならなかった。もう一度，色画用紙に型紙を使ってハートの形をかいた。

３Ａ児　「先生切って」
教師　「さっき切ったのは，どうしたの」
３Ａ児　「変になった。（友達のもっているきれいに切り抜かれたハートを指さして）これみたいにきれいにしたい」
教師　「それじゃあ，先生と一緒にやってみよう」
３Ａ児　「うん」

教師は３Ａ児の後ろから３Ａ児のはさみを持った手と切り抜く紙を支え，切り方を伝えながら少しずつ切り，さっきよりもきれいなハートの形を切り抜くことができた。

３Ａ児　「できた」
教師　「ゆっくりやったらできたね」
３Ａ児　「もう一個つくりたい」
教師　「困ったら，またお手伝いするね」

３Ａ児は「うん」と答え，つくり始めた。いびつな形にはなったけどハートの形を切ることができた。

考察

課題

友達みたいにきれいなハートの形をつくりたい　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・友達のやり方を真似て自分でやってみようとするが，うまくできない
・教師に助けを求める
・教師と一緒にやってみると，思っていたハートの形が切れる

教師のかかわり

・３Ａ児の手と紙を支えながら，一緒にハートの形を切る
・できたことを共に喜ぶ

学んでいたと思われること

・友達みたいにきれいなハートの形をつくりたいがうまくできない　不満足感
・教師と一緒にやったら思った形を切ることができたうれしさ　達成感　信頼感
・もう一度挑戦しようとする気持ち　意欲
・教師に手伝ってもらえる安心感　安心感

9月29日（火）　「私もスカートつくる」　　気持ちを切り替えて解決

３Ａ児が「スカート返しなさい」「３Ｂ児ちゃん，いじわる」と怒っている。３Ｂ児は黙ったまま，３Ａ児を見ている。しばらく様子を見ていたが，状況が変わらなかったので声をかけた。

教師　「３Ａ児ちゃんは，何を怒っているの」

３Ａ児　「３Ｂ児ちゃんが黄緑色のスカート返してくれないの」

３Ａ児は手に少し汚れた緑色のスカートをもち，３Ｂ児はきれいな黄緑色のスカートをはいていた。

教師　「３Ａ児ちゃんも，黄緑色のスカートを使いたいってこと」

３Ａ児　「そう」「スカート返しなさい」

３Ｂ児　「ダメ」

３Ａ児は最初黄緑色のスカートを使っていたが，３Ｂ児が貸してほしいと言ったので貸してあげたが，３Ｂ児が使っている姿を見ていたら，きれいな黄緑色のスカートを使いたくなった。そこで，返してほしいと言ったが，返してくれなかったため怒っていた。そこに，３Ｃ児が「先生，スカートない」とやってきた。

教師　「みんな使っているみたいね」

３Ｃ児　「う～ん」

教師は，運動会で使った不織布のあまり布を材料コーナーに準備してあったこともあり，「製作コーナーにある材料でつくってみようか」と声をかけた。３Ａ児から見える場所で３Ｃ児と一緒に紙ベルトに不織布を重ねてはったスカートをつくった。３Ｃ児は「かわいい」と大喜びでスカートをはいて遊び始めた。その間，３Ａ児と３Ｂ児は一歩も動かなかったが，喜ぶ３Ｃ児の姿を見て，３Ａ児は教師のそばに来た。

３Ａ児　「先生，私もスカートつくる」

教師　「一緒につくろう」「３Ａ児ちゃん，黄緑色のスカートはどうするの」

３Ａ児　「使わない」

その後，３Ｂ児は黄緑色のスカートをはいて遊び続けた。３Ａ児は，自分の好きな色を組み合わせてスカートを完成させた。出来上がると３Ａ児はスカートをはき「かわいいでしょう」と教師の前でポーズを決めた後，鏡の前に行き自分の姿を満足そうに見ていた。

考察

課題

・自分の気に入ったスカートをはいて遊びたい　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・３Ｂ児にスカートを返してほしいと訴える

・３Ｃ児が教師とスカートをつくる姿を見る

・３Ｃ児の喜ぶ姿を見て，気持ちを切り替える

・教師とスカートをつくる

教師のかかわり

・いざこざの状況を聞く

・思いを聞く

・３Ａ児から見える場所で３Ｃ児とスカートをつくる

・思いを話すように促す

学んでいたと思われること

・３Ｂ児は自分の思い通りにならない存在であること　友達理解　思い通りにならない体験

・３Ｃ児と教師がつくったスカートもかわいいことに気づく　興味関心

・自分でもスカートをつくることができること　新たな方法に気づく

・自分でつくったスカートを使って遊ぶ楽しさ　楽しさ　満足感

困っている友達を助けようと行動して解決

１０月２０日（火）　「３Ｄ児ちゃんが聞いてあげようか」

３Ａ児は，３Ｂ児，３Ｃ児がしているお店屋さんに入りたいと思い，３Ｂ児に「まぜて」と声をかけるも「ダメ，３Ａ児ちゃん嫌い」と言われて困っている。３Ａ児は教師に助けを求めに来た。そこで，３Ａ児の思いを受け止めながらも，もう一度自分で声をかけるよう促し，そばで様子を見ていた。すると，その様子を見ていた３Ｄ児がやってきた。

３Ｄ児　「３Ａ児ちゃん，どうしたの」

教師　「お店に入りたいけど，入れてもらえなくて困っているの」

３Ｄ児　「まぜてって言ったらいいよ」

３Ａ児　「でも，３Ｂ児ちゃんがダメっていうもん」

教師　「３Ｃ児ちゃんもいるよ。３Ｃ児ちゃんにも聞いてみたら」

３Ｄ児　「３Ｃ児ちゃんに聞いてみたらいいよ」

３Ｄ児は教師の方を見て，教師に確認するかのように「ねっ」と言った。

３Ａ児　「でも，３Ｂ児ちゃんがダメって」

この時には，お店に３Ｂ児の姿はなく，３Ｃ児，３Ｅ児がお店屋さんになって楽しんでいた。

３Ｄ児　「３Ｄ児ちゃんが聞いてあげようか」

３Ａ児　「・・・・」

３Ｄ児　「３Ｃ児ちゃん，３Ａ児ちゃんがまぜてほしいんだって。３Ａ児ちゃん入ってもいい」

３Ｃ児　「うん」

３Ｄ児　「３Ｃ児ちゃんいいって」

３Ａ児　「でも，３Ｂ児ちゃんがダメって言った」

教師　「お店に，もう３Ｂ児ちゃんいないね。違うところに遊びに行ったのかな」

３Ｄ児　「３Ｄ児ちゃん，３Ｃ児ちゃんに頼んであげようか」

３Ｄ児はそう言って，教師を見た。教師が頷くと，３Ｄ児も頷き３Ｃ児のそばに行く。３Ａ児は３Ｄ児の様子を見つめていた。

３Ｄ児　「３Ｃ児ちゃん，３Ａ児ちゃんのことお願いね」

３Ｃ児　「うん」

３Ｄ児は「３Ｃ児ちゃんに頼んだから」そう言って３Ａ児をお店の中に連れて行った。３Ｃ児は「こっち」と３Ａ児を呼んだ。３Ａ児は３Ｃ児の隣に並んだ。そこに３Ｆ児がやってきた。３Ｅ児が「はいどうぞ」と食べ物をわたした。３Ｃ児は「何にしますか」とたずねた。３Ｆ児は「おにぎりとお肉とリンゴ」と言った。３Ａ児は急いで食べ物を選び，３Ｆ児に渡した。３Ｄ児は３Ａ児が遊び始める姿を見た後，教師の所にきて「よかったね」と言った。教師は「３Ｄ児ちゃんのおかげだね」と声をかけた。

考察

課題

・先生の真似をして，困っている友達を助けたい　**発見課題**

主体的・協同的な姿

・困っている友達がいることに気がつき声をかける

・自分の考えを友達に伝える

・これまでの教師のかかわりを真似てやってみる

・３Ａ児を遊びの場に連れて行く

教師のかかわり

・３Ａ児の思いを受け止め，自分で気持ちを切り替えられるように願い言葉をかける

・３Ｄ児に３Ａ児の思いを伝える

・その場の状況を言葉で表現する

・３Ｄ児の言動を認める

学んでいたと思われること

・自分で「まぜて」と声をかけることができない友達がいること　友達理解

・まぜてもらえない友達を助けてあげると，その友達は遊ぶことができる　満足感　自己肯定感

・困っている友達の代わりに行動すると困っている友達が喜ぶこと　満足感　自己肯定感

11月11日（水）「くるくる棒づくり」　　友達の真似をしながらくるくる棒をつくって解決

３Ａ児，３Ｂ児らがくるくる棒（新聞紙や広告紙などを細く丸めてつくった棒状のもの）をつくりたいと，教師の所にやってきた。そこで，製作コーナー横の床で教師と一緒につくることにした。教師は「順番ね」と一人ずつ教師の前に座るよう促し，幼児の後ろからつくり方を伝えたり，手を添えて一緒に紙を丸めたりしていた。そこに３Ｃ児，３Ｄ児も紙をもって「くるくる棒つくりたい」と，教師の所に来た。

教師　　「今，３Ａ児ちゃんとつくっているから，順番ね」

３Ｃ児，３Ｄ児は，紙を手に持って教師のそばに座った。３Ａ児のくるくる棒を巻き終えると，３Ａ児は「テープ，先生と一緒にしたい」と言った。教師は３Ａ児が製作コーナーからテープをもってきて留め終わるまで手を添えて手伝った。

教師　　「次，３Ｂ児ちゃんね」

３Ｂ児は教師に紙を渡し，教師の向かい側に座ったので，教師は「一緒につくろう。こっち（先生の前）に来て」と，３Ｂ児を促し教師の前に座らせ，一緒に紙を巻き始めた。その間，３Ｃ児は製作コーナーに行ったり，ままごとコーナーに顔を出したりしていた。そして３Ｂ児のくるくる棒が巻きあがると，３Ｃ児は「はい」と自分の指についているテープを３Ｂ児に差し出した。３Ｂ児は「ありがとう」とテープを受け取りくるくる棒を完成させた。３Ｃ児は３Ｂ児に笑顔を見せた。

教師　　「次は３Ｃ児ちゃんの番ね」

３Ｃ児　「先生，ちょっと待って。テープ」

３Ｃ児は，指につけていたテープを床にはって，教師の前の座った。そして，教師と一緒にくるくる棒を巻き，最後に自分が床に張ったテープで留めて完成させた。その様子を見ていた３Ｄ児は自分の順番がくると「先生，テープ」と言って製作コーナーに行き，テープを切って持って帰ってきた。そして教師の前に座り，３Ｃ児と同じように床にテープを貼った。教師と一緒にくるくる棒を巻き終えると，床に貼ってあったテープを探し，「あった」と床からテープをはがした。そのテープを巻きあげた棒に貼り，くるくる棒を完成させた。

考察

課題

くるくる棒をつくりたい　**達成課題**

主体的・協同的な姿

・くるくる棒をつくりたい思いをもち，順番を待つ

・３Ｃ児は３Ａ児の様子を見て，早く自分の番になってほしいので３Ｂ児のテープも持ってくる

・３Ｄ児は３Ｃ児の姿を真似て，同じようにやってみる

教師のかかわり

・つくりたい幼児と一緒にくるくる棒をつくる

学んでいたと思われること

・先生はつくってくれないが，出来上がるまで一緒につくってくれること　信頼感　安心感

・３Ｃ児：紙を巻くだけではなく，テープも先生と一緒に止める友達（３Ａ児）のやり方を知る　よりよいやり方

・３Ｃ児：テープを切って持っていくと３Ｂ児が喜んでくれること　自己肯定感

・３Ｃ児：テープを切って持っていくと自分のくるくる棒が早く出来上がること　早く手にする方法

・３Ｄ児：紙だけではなくテープも持ってくると，早く完成させることができること　新しいやり方

・３Ｄ児：３Ｃ児の真似をすると早く完成することができた　満足感

1月14日（水）「三つ編み」 **友達にやってもらって解決する**

３Ａ児，３Ｂ児，３Ｃ児，３Ｄ児，３Ｅ児がタフロープで三つ編みをつくりたいと，教師が準備した『三つ編みカード』（３色の色を１，２，３の順に記したもの）を見ながら，「赤，紫，黄色，赤，紫，黄色」と言いながら挑戦していた。教師は様子を見ながら，声をかけたり，手を添えたりしていた。

３Ａ児　「むずかし～い」

３Ｃ児　「わからなくなった」

教師は「ここ（タフロープを交差させる部分）を押さえながらするとわかりやすいよ」と，やって見せた。幼児は教師の手元を真剣に見ていた。教師の話が終わるとすぐに自分のタフロープに目を向け，つくり始めた。

３Ｄ児　「先生，できてきた」

３Ｂ児　「できない」

その様子をそばで見ていた３Ｆ児が，３Ｂ児に「次，紫」と声をかけた。３Ｂ児は３Ｆ児の顔を見た後，紫のタフロープを動かした。３Ｆ児は「次，黄色」と，黄色のタフロープを持ち上げた。３Ｂ児は，３Ｆ児から黄色のタフロープを受け取り動かした。

３Ｆ児　「３Ｆ児ちゃん，やってあげようか」

３Ｂ児　「うん」

３Ｆ児は３Ｂ児と場所をかわった。３Ｂ児は３Ｆ児のすぐ横に座り，３Ｆ児がつくってくれる様子を見ていた。３Ｂ児の三つ編みができあがると，３Ｅ児が「３Ｅ児ちゃんも（やって）」と声をかけた。３Ｆ児は「いいよ」と，３Ｅ児の三つ編みもつくった。出来上がると３Ｆ児は「みんなのつくった～」と，満足げな表情で教師に伝えた。

考察

課題

・三つ編みがほしい　**解決課題**

主体的・協同的な姿

３Ｂ児

・教師につくり方を聞いたり，教師のつくる様子を見たりして自分でやってみる

・３Ｆ児の手助けを受け入れて，つくろうとする

・３Ｆ児の申し入れを受け入れ，つくってもらう

３Ｆ児

・教師の教え方を真似てできない友達を手伝ってあげる

・できない友達の分をつくってあげる

教師のかかわり

・三つ編みのやり方がわかるように『三つ編みカード』を準備する

・目の前でつくって見せる

学んでいたと思われること

３Ｂ児

・三つ編みのやり方を知る　知識

・三つ編みをしてみるが，思うようにできない不満　不満足感

・友達に助けてもらって，三つ編みを手にすることができた嬉しさ　嬉しさ

・助けてくれる友達がいることを知る　友達理解

・３Ｆ児は三つ編みができることを知る　友達理解

３Ｆ児

・自分の申し入れを受け入れてくれる友達がいることを知る　友達理解

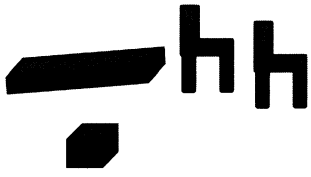
・つくってあげることができた喜び　満足感　自尊心

1月21日（木）　「こっち（に乗せて）」　　お互いのやろうとすることを読みとりながら解決

この日の前日，教師は３Ａ児，３Ｂ児，３Ｃ児らとお寿司屋さんごっこをした。教師が中心となり，保育室のホワイトボードの前でジュニアブロックや椅子を使って３つのテーブルをつくり，そのテーブルで店を囲み，その中で身近な素材を使って寿司をつくって楽しんだ。かたづけの時には，「明日，これ（すし桶）いっぱいにしたら（すしを並べることができたら）お店をオープンさせよう」と，話しながらかたづけをした。

この日，教師は着替えコーナーで幼児（３Ｂ児ら）の身支度の援助をしながら遊びの様子を見ていた。その時３Ａ児がお寿司屋さんのお店をつくる為にジュニアブロック（板のものと立方体のもの）を二つ，保育室のホワイトボードの前（昨日お店をつくった場所）に運んできた。

教師は３Ｂ児にも早く身支度を終え，お寿司屋さんに参加する気持になってほしいと願い「３Ａ児君，早い！もうお寿司屋さんの店，つくり始めたよ」とつぶやいた。



その声を聞いた３Ｃ児が教師のそばにやってきた。

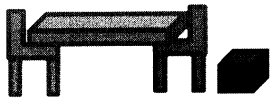
３Ｃ児　「先生，僕もやりたい」

教師　「３Ａ児君がもうお店つくってるよ。先生，まだ遊べないんだよね。３Ａ児君に聞いてみたら」

３Ｃ児は３Ａ児のそばに行った。３Ａ児は，昨日と同じお店になるように板のジュニアブロックをテーブルのようにしようと，椅子や立方体のジュニアブロックを動かしているが思うようにできないでいた。３Ｃ児は３Ａ児の動きを見ながら椅子を動かした。３Ｃ児はこれまで自分から友達に声をかける姿はほとんどみることができない幼児であったが，この日は自分から声をかけた。

３Ｃ児　「こっち（に乗せて）」

そう言って，３Ａ児の持っていたジュニアブロック（板のもの）の一方を椅子の上に乗せるように促した。そしてもう一方の下に椅子を入れ，テーブルをつくった。二人で顔を見合わせながら微笑んだ。



３Ａ児　「こっち（出来上がった右隣）も，テーブルにしないとダメや」

３Ｃ児　「こっち（３Ａ児が示したその隣）も」

そう言って二人で笑った。その後，３Ａ児と３Ｃ児はテラスからジュニアブロックを運び入れ，昨日と同じようにテーブルを３つつくって場を囲みお店を完成させた。

考察

・前日と同じようにテーブルをつくりたい　**達成課題**

主体的・協同的な姿

３Ｃ児

・お寿司屋さんをしたい思いを教師に伝える

・３Ａ児にジュニアブロックの組み合わせ方を伝える

・３Ａ児の様子を見て椅子を動かす

３Ａ児

・ジュニアブロックを運ぶ

・自分なりに組み合わせてみようとする

・３Ｃ児の言葉を聞き，ジュニアブロックを動かす

教師のかかわり

・３Ａ児の様子をまわりの幼児が気づくようにつぶやく

・３Ｃ児が３Ａ児と一緒に寿司屋さんごっこができるよに願い，３Ｃ児に３Ａ児にかかわるよう促す

学んでいたと思われること

・友達のやろうとすることを読みとって行動する　友達の思いを洞察する

・友達と同じ思いをもつこと　目的の共有

・テーブルができた達成感を共有する　達成感の共有

４歳児事例

６月３日　「じゃあ，二人ですれば」　　解決策を出し合って解決しようとする

弁当の準備のため，４人グループで机を出そうとするが，４Ａ児，４Ｂ児は二人で机の同じ場所を持とうとした。幼児らは今までの経験から，４人で４辺を持てば安全に運べると分かっている。しかしどうしても同じ場所を持ちたい４Ａ児，４Ｂ児は押し合いをして場所を取ろうとしていた。取り合う中で二人とも泣き出してしまうが，泣きながらも押し合いを続けている。その様子を見ている同じグループの４Ｃ児，４Ｄ児に加えて，４Ｅ児，４Ｆ児，４Ｇ児らが集まってきた。

４Ｅ児　「じゃあ，４Ｂ児君こっちにしたら」
４Ｂ児　「いやーーー」（泣きながら）
４Ｃ児　「最初，４Ｂ児君こっちにきたんだよ（だから４Ｂ児君は場所を変わらなくてよい）」
４Ｄ児　「こっちにだれかいかないと，机がさかさまになる」
教師　「そうだよね。二人でここ持ったら危ないことになるかもしれないもんね。でもこれ運ばなきゃいけないもんねぇ。」
４Ｄ児　「だれかがこっちにこなきゃいけない」

４Ｄ児の声を聞いて，４Ｂ児，４Ａは泣きながら更に「どいてよ」「やだー」と泣きながら押し合いをする

教師　「どうする？」

４Ｂ児，４Ａはなおも「こっちがいい」「僕が持つ」と泣きながらさらに激しく押し合いを続けた。

教師　「分かった分かった。押し合いしても決まらないよ。」
４Ｆ児　「じゃあ，４Ｂ児君こっちにして，４Ａ児君こっちにしたら」

４Ｆ児は４Ｂ児に場所を移るように提案するが，納得せず泣いて４Ａ児を押し続ける

教師　「うん，でも二人ともこっち持ちたいんだって」
４Ｅ児　「じゃあ，二人ですれば」
４Ｆ児　「でも，危ないんじゃない？」
４Ｄ児　「だれか（別の友達が）こっちに来ないといけない」

と，また話が振出しに戻り，どうしたらよいか分からなくなってしまい沈黙の時間が流れた。

教師　「じゃあ，試しにこれ（二人）で持ってみたら。これでもてたらいいんじゃない。先生は危ないなと思って，こっちがいいと思ったけど，危なくなかったら」
４Ｃ児　「先生，お手伝いして！」
教師　「先生，重たいからもてない。重たくって持てないもん」
４Ｃ児　「もーー！」

４Ｃ児と教師のやり取りを見ていた４Ｇ児が机の誰もいない所へ行き，

４Ｇ児　「よし！」

と言い，机を持ちあげた。その様子見て４Ｄ児が「ありがと」と言い，４Ｂ児，４Ａ児は泣くことをやめ，二人で同じ場所を持ち上げ，５人で運んでいった。

考察

課題

・机を運ぶことができない　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・机を運ぶために，持ち方に関していろいろなアイディアを提供する

・困っている友達が納得するような机の持ち方を考えようとし，提案する姿

教師のかかわり

・考えが行き詰まった時に，今考えられる方法を試してみるように促し再考するきっかけを与える

・グループの友達や他グループの友達とかかわっていけるように，直接机を運ぶことを手伝わない

学んでいたと思われること

・友達からのアイディアで自分達の課題を解決することができることを知る

友達の力を借りること

・困っている状況を見て，手を貸してうまくいくことを知る　友達に力を貸すこと

・自分達の力で，机を運ぶことができた喜び，安心感　満足感　安心感

・力を貸してくれた友達への感謝の気持ち　感謝

9月10日（木）　「教えてあげようか？」　教えてもらって解決

４Ａ児は弁当の包みを縛ろうとしている。何度も縛ろうとしているがうまく縛ることができない。

４Ａ児　「できない」「できない，できない，先生来て，来て，来て」

４Ａ児は弁当の包みを縛れないので，教師の力を借りようと声を掛けた。

教師　「ごめん，先生は今４Ｄ児のお弁当見てるからいけないんだ」

４Ａ児　「やだ，やだ，来て，来て・・・」

４Ａ児は教師から手伝って貰えないので泣き出してしまう。そこへ４Ａ児の泣いている様子を見ていた４Ｂ児がやってくる。

４Ｂ児　「やってあげようか？」

４Ａ児　「いらない」

弁当を自分の力で包める４Ｂ児は，４Ａ児の包みもやってあげようとする。しかし４Ａ児は自分の力で結びたい気持ちがあったので，４Ｂ児の申し出を断ってしまう。その後泣きながらも，何度も挑戦するがうまくいかなかった。そこへ４Ｃ児がやってくる。

４Ｃ児　「教えてあげようか？」

「ここと，ここをちゃんともって，こうするの」

４Ａ児　「うん」

４Ｃ児　「こうやって，こうするんだよ」

４Ｃ児は４Ａ児と一緒に弁当包みの端をもちながら，結んでいった。４Ａ児は一緒にやっているものの，自分の力でも弁当を包んでいることを感じ，４Ｃ児の声を聞きながら結んでいった。

４Ｃ児　「ほらできた」

４Ａ児は包み終えた弁当をじっくりとながめた。

４Ａ児　「ありがとう」

４Ｃ児はそれを聞いたか聞いていないかの間にその場を立ち去った。

考察

課題（４Ａ児）

・弁当の包みを自分の力でしばることができない　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・友達の「教えてあげようか」の声を受け入れ，一緒に弁当の包みを縛る姿

教師のかかわり

・教師しかできない援助ではないので，直接かかわることをせずに周りの友達にかかわっていったり，かかわったりしてきてくれるまで見守る

学んでいたと思われること

・教師以外にも，友達からも自分の課題を解決するために力を貸してもらえることを知る

友達の力を借りること

・自分の力もつかって，弁当の包みを縛ることのできた喜び　満足感

・力を貸してくれた友達への感謝の気持ち　感謝

・弁当の包み方を知る，経験する　生活に必要な知識・技能　　生活経験

課題（４Ｃ児）

・弁当の包みを自分の力でしばることができず困っている友達の存在

主体的・協同的な姿

・弁当の包みを縛れない友達に自ら声をかけ，教えながら一緒に包む姿

・自分の知識や経験から教える姿

学んでいたと思われること

・困っている友達を見つけかかわろうとすること　友達を助ける体験

・自分の力を貸すことで解決できる課題であると判断し，かかわっていく　自己の能力から判断

9月14日（月）　「ちょっ，これどうすればいいの」　　教えてもらって解決

５歳児５Ａ児，５Ｂ児がチョウをつかまえた。虫網の中に入ったチョウを出そうとするが，どうやったら網から逃がさずつかまえられるか分からない。４歳児４Ａ児，４Ｂ児らも混ざり，どうしたらよいかと困っていた。

別の場所で虫取りをしていた４Ｃ児が，友達が集まって騒いでいるのを見つけて駆け寄ってきた。

４Ｃ児　「４Ａ児なにしてる？」
４Ａ児　「ちょうちょつかまえた」
５Ｂ児　「ちょうちょつかまえた」
５Ａ児　「ちょうちょつかまえた」

３人は同時に答えた。

４Ａ児　「ほらほら」

４Ｃ児は友達が集まっている上から網の中にいるチョウを眺めた。その間ずっと４Ｂ児は網の上からチョウをつかまえようとし続けているが，うまくいかない。ついには網の上からチョウを思い切り鷲掴みしてしまった。

５Ｂ児　「そんなに持ったらくるしいじゃん」
５Ａ児　「ちょっ，これどうすればいいの」

だれもチョウをつかまえることができなかった。その様子を見ていた４Ｃ児が

４Ｃ児　「まず，教えてあげる」
　　「ちょっとどいて」
５Ａ児　「はい」

５Ａ児は場所をあけた。すると４Ｃ児が網の上からチョウの羽を２枚そろえてやさしく掴み

４Ｃ児　「下からちょうやって，とればいい」

と，チョウのつかみ方を見せ，周りの友達に教えてあげた。それを見ていた４Ｂ児が，網の下に手を入れ，４Ｃ児のやっていた通りにチョウの羽をつかんだ

４Ｃ児　「そうしたら，ほら，チョウつかまえられる」

４Ｂ児は蝶を虫網から出すことができた。

考察

課題

・チョウを虫網から出すことができない　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・学年に関係なく，チョウの捕まえ方を知っている友達の力を借りたり，貸したりすること（５Ａ児，５Ｂ児）
・チョウをつかまえられないという状況を理解して，教えてあげようとすること（４Ｃ児）
・チョウのつかみ方を実際に見せて，友達が自分で取ることができるように促したこと（４Ｃ児）
・チョウのつかみ方をまねて，虫網から出すことができたこと（４Ｂ児）

学んでいたと思われること

・自分の知識や経験を使えば，友達の課題が解決できるということ　知識・経験の他者への利用
・得意な人との知識や経験のやり取りをして課題を解決できるということ
　課題解決のために必要な他者とのかかわり方

9月16日（水）　「じゃあ，合体すればいいんじゃない？」　教えてもらって解決

お弁当を食べ終え，かたづけをすませた４Ａ児，４Ｂ児，４Ｃ児，４Ｄ児，４Ｅ児が，ブロックを使って遊んでた。すると，４Ｄ児の泣く声が聞こえてきた。教師は近くで他の幼児とかかわりながら，ブロックをしている幼児の様子を見守っていた。泣いている４Ｄ児を見ていた４Ａ児が「先生，ちょっと来て」と教師を呼びに来たので話を聞きに行くことにした。

４Ａ児　「先生，４Ｄ児くんが泣いてるよ。」

４Ｄ児は声をあげて泣いている。

教師　「どうしたの？」

４Ｂ児　「４Ｃ児くんが（ブロックを）独り占めした。」

４Ｃ児はたくさんのブロックを使って，何かをつくっている。４Ｄ児は，２個のブロックを持って泣いている。

教師　「泣いてるね。どうしようか。」

４Ｃ児　「･･･」

４Ｃ児は，ちらっと４Ｄ児の方を見たが，またにこにこと遊びだした。

４Ａ児　「こんなときは，笑っちゃだめだよ。」

４Ｃ児　「･･･」（遊ぶのをやめる）

４Ｃ児が話を聞き始めた。

教師　「どうしたらいいかな。」

４Ｂ児（４Ｃ児の方を見て）　「１個わけてあげる？」

４Ｅ児　「ぼくはみんなで遊びたい」

４Ａ児　「じゃあ，（４Ｃ児のブロックと４Ｄ児のブロックを）合体すればいいんじゃない？」

４Ｃ児　「４Ｄ児くんのと合体するか！」

４Ｄ児は泣き止み，にこりと笑った。

４Ｃ児　「ロボット変形だー！」

みんな　「変形！変形！」

考察

課題

・困っている友達を何とかしたい　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・泣いている友達を気遣っている（４Ａ児）

・自分の考えている解決策を表現している（４Ａ児，４Ｂ児，４Ｅ児）

・友達の提案に興味をもつ（４Ｃ児，４Ｄ児）

教師のかかわり

・子ども達どのようなかかわりをするのかを見たいと思い，すぐには行かずに様子を見守った

・４Ｄ児が泣いている理由を聞き，一人一人が自分の考えを言えるような場をつくる

学んでいたと思われること

・自分の思っていることを言ってもいいんだという経験（４Ａ児，４Ｂ児，４Ｅ児）**思いを表現する**

・自分の提案を受け入れてもらえる嬉しさ（４Ｂ児）**自己有用感**

・自分の味方になってくれる友達がいる嬉しさ（４Ｄ児）**味方になってくれる友達の存在**

・友達の言ったおもしろそうなことを受け入れる経験（４Ｃ児）**友達の発想を共有する**

9月24日（木）　「ここにあるよ！」　教えてもらって解決

グループごとにお弁当を食べていたときに，みどりグループの４Ａ児が，机に水をこぼした。４Ａ児は早足で机拭きの入っている引き出しに向かった。

４Ａ児　「机拭き･･･」

しかし，引き出しには机拭きタオルは１枚も残っておらず，タオルかけにかけてある。そのことに気が付いていない様子の４Ａ児は，床拭きの引き出しを触った。

４Ｂ児　「床拭きならそこ（引き出し）にあるよ」

困っている様子の４Ａ児に同じグループの４Ｂ児が声をかけた。

４Ａ児　「ちがうよ，机拭きがないんだよ」

４Ｂ児　「ほんとや」

４Ｂ児は，４Ａ児を先導し，タオルかけに走った。

４Ｂ児　「ここにあるよ！」

４Ａ児　「これで拭けるよ」

２人は一緒にグループの机に戻った。

考察

課題

・机拭きが（あると思っていた）引き出しに無い　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・困った様子の４Ａ児に声をかける（４Ｂ児）

・友達に困っていることを話す（４Ａ児）

・机拭きのある場所を教えている（４Ｂ児）

教師のかかわり

・教師は直接的にかかわらなくても，友達同士のかかわりで解決すると考え，見守った

学んでいたと思われること

・机拭きがないことを友達に話したら一緒に探してもらえること（４Ａ児）　助けてもらう体験

・困っている友達を助けるという満足感　自己有用感

９月２８日（月）　「でも，これもかっこいいかも！」　　友達同士協力して解決

４Ａ児，４Ｂ児，４Ｃ児は，プレイルームでマルチパネを組み立て，基地をつくって遊んでいる。テラスでも同様に，他児が基地をつくっている。それを見た４Ａ児らは，２つの基地を合体させようと自分たちの基地をプレイルームから，テラスに移そうとしている。

４Ａ児　「(プレイルームからテラスまで）押して出せばいいよ。多分出せるよ。」

４Ｂ児「そうだね。よし，押そう！せーの！」

力を合わせて後ろから押すが，そのままではプレイルームの戸からは出すことできないことに気付く。

４Ａ児　「だめだ。でかすぎる」

４Ｃ児　「ほんとや。じゃあ壊して一つずつ出すしかないんじゃない？」

４Ｂ児，４Ａ児　「えー」

解体することをやや惜しみながらも，３人で一つずつ壊しては運び，テラスで再び組み立て始める。

４Ａ児　「やっと全部出たー！」

４Ｃ児　「あれ？でもこれさっきと形変わっとるよ。ここについとったんに反対向きになった」

４Ｂ児　「赤が一番上やったんに一番下になっとる。色も変わった」

しばらく沈黙が続いたが，４Ｂ児がひらめいたように口を開く。

４Ｂ児　「でも，これもかっこいいかも！」

４Ｃ児　「そうやね。こっちの方が強いかもしれん」

４Ａ児　「こっちの形の方が敵が来ても守れそうや」

再びいきいきと遊びが始まった。

考察

課題

・マルチパネ（基地）を，プレイルームからテラスへ移動させたい　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・マルチパネ（基地）を，プレイルームからテラスへ移動させようと試みる姿

・どうすればマルチパネ（基地）をプレイルームからテラス移動させられるかを考え，提案し，実践する姿

・新たに生じた課題（プレイルームでつくっていた基地と形が変わってしまったこと）に向き合う姿

教師のかかわり

・大きなマルチパネを持って狭い戸を行き来するので，危険のないよう気を配りながら見守った

学んでいたと思われること

・マルチパネ（基地）を，プレイルームからテラスへ移動する方法を考える　解決に向けて考える

・友達と一緒に取り組むことでやり遂げられた満足感　満足感

・目の前の状況を前向きにとらえる（４Ｂ児）　発想の転換

・友達の前向きな発想を受け入れて遊ぶ（４Ｃ児，４Ａ児）　友達の発想を共有する

１０月２日（金）　「教えてあげようか？」　教えてもらって解決

テラスにジュニアブロックで新幹線をつくり，４Ａ児が教師と二人で乗っていた。そこへ，困った様子の４Ｂ児がつくりかけの手裏剣の２つのパーツを持ってやってきた。

４Ｂ児　「先生，手裏剣のつくり方わかる？」

教師　「うーん，わからないなぁ」

４Ｂ児　「お母さんなら検索してつくり方わかるんだけどなぁ･･･」

家で手裏剣をつくった経験があることを話しながら，つくり方が思い出せない様子の４Ｂ児を見て，教師の隣にいた４Ａ児が４Ｂ児に話しかけた。

４Ａ児　「ぼく，おばあちゃんとつくった事あるよ」

４Ｂ児　「本当に？」

４Ａ児　「うん。ちょっと見せて」

４Ａ児は４Ｂ児が持っていた折りかけの二つのパーツを手にとり，考え始めた。

４Ａ児　「これって，形が同じだとだめなんだよ」

４Ｂ児　「そうなんだ」

４Ａ児は２つのパーツが互い違いになるように，折り直した。

４Ａ児　「あ，でもこれ二つの大きさ違うね」

４Ｂ児　「本当だ。じゃあそろえればいい」

新聞紙でつくった折り紙なので，元の紙の大きさが違い，なかなか二つパーツの大きさはそろわない。それでも二人は大きさがそろうように，比べながら折り直した。

４Ａ児　「これとこれを合体するよ」

４Ｂ児　「合体だね」

二人は２つのパーツを重ねて折り込もうとするが，うまくいかない。

４Ａ児　「うーん。うまくいかない」

４Ｂ児　「うーん」

４Ａ児　「じゃあセロテープでくっつけたらいいんじゃない」

４Ｂ児　「でも検索したのはテープ使わないんだけど･･･」

４Ａ児　「ちょっと貸してみて」

４Ａ児は製作コーナーに行き，セロテープで二つのパーツをくっつけた。４Ｂ児は隣でその様子をじっと見ていた。

できあがった手裏剣は，４Ｂ児が目指していたものとは違うものだったが，４Ａ児は満足したようだった。

４Ａ児　「あー，よかった。うまくできたね」

４Ｂ児　「・・・」

４Ｂ児はできあがった手裏剣をじっと見つめてから４Ａ児に尋ねた。

４Ｂ児　「これ手裏剣に見えるよね？」

４Ａ児　「うん！」

嬉しそうに答えた４Ａ児を見た４Ｂ児は，できあがった手裏剣を大事にそうに持って遊びにいった。

考察

課題

・以前につくったことがある手裏剣をつくりたい　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・つくり方がわからないことを教師に伝える（４Ｂ児）

・困っている友達と一緒に考える（４Ａ児）

教師のかかわり

・手裏剣を教師が代わりにつくってあげるのではなく，どうしたらよいかを自分で考えてほしいと願い見守った

学んでいたと思われること

・自分の思い通りの手裏剣がつくれないはがゆさ（４Ｂ児）　思い通りにならない体験

・教師でなくても助けてくれる友達がいる（４Ｂ児）　助けてくれる友達の存在

・友達と一緒にいろいろ試行する（４Ａ児，４Ｂ児）　試行する力

・困っている友達を自分が助けてあげられた（４Ａ児）　自己満足感

・思い通りの手裏剣にはならなかったが友達と一緒につくったものを受け入れる（４Ｂ児）妥協

１０月１９日（月）　「いい考え思いついた。ちょっと僕についてきて」

友達の提案を受け入れて解決

４Ａ児，４Ｂ児らはマルチパネを使って，忍者の基地を組み立てていた。ある程度形が出来上がったところで，４Ｂ児が寝る場所をつくりたいと，マルチパネを１枚運んできた。４Ａ児がそれに気づき近づいてきた。

４Ａ児　「ちがう，これは。つけないで」

４Ｂ児　「忍者の寝る場所って決めたんだよ」

４Ａ児はマルチパネをうばいとり，基地から離れた場所へマルチパネをもっていこうとする。

４Ａ児　「ダメだよ（いらないよ）」

４Ｂ児　「やめてよ」

とマルチパネの取り合いとなった。４Ｂ児はそれでもマルチパネを基地の近くまで引っ張っていくと，無理やり基地にはめ込もうとする。４Ａ児はマルチパネを引っ張ることをあきらめ，４Ｂ児がマルチパネをはめ込む様子を不満そうに見ているが，マルチパネの組み合わせが悪くうまく取りつけられないことに気付くと

４Ａ児　「でも，こんなんじゃくっつかないよーだ。はめたってこわれるよ」

と，４Ｂ児に繰り返し言い続けた。実際にうまくマルチパネがはまらないことと，その言葉を聞き続けて気分が落ち込んだ４Ｂ児はマルチパネをつけることをやめ，地面において，すねたようにその上に座り込んだ。

４Ａ児　「そんなんだめやよ。それ，つけるためにあるんだし」

と，地面にマルチパネを置いたことに対してマルチパネを基地に取り付けるよう声を掛けた。

４Ｂ児　「先生」

と困ったような声で教師をに声をかけてきた。

教師　「どうしたいの」

４Ｂ児　「寝る場所どこにしようかなって」

教師　「寝る場所，つくりたいんだね」

と教師が言い終わる前に４Ａ児が

４Ａ児　「ここと かに，斜めにすればいいだけじゃん」

と基地の外側に，滑り台のようにななめになるようにマルチパネをつけるように提案する。

４Ｂ児　「そうしたら落ちやすいよ（寝ることができない）」

４Ａ児　「こうやってさ」

とマルチパネをもちあげ，地面と平行に持ちあげて寝ることができるよう見せた。

４Ｂ児　「ほら，簡単にはずれる」

と，別の場所が外れやすくなることを指摘する。４Ａ児の提案に納得しない表情である。

４Ａ児　「なんか，マルチパネ持って来ればいいの」

とマルチパネをほかにも持ってきて，斜めにならないようにすればよいとさらに提案する。

４Ｂ児　「マルチパネ１個でいいの。手離して」

と言い，再び基地の中にマルチパネを組み込み始めた。

４Ａ児　「できませーん。でもこっち，できないじゃん」

とマルチパネの組み合わせが悪いことを再び指摘する。４Ｂ児はマルチパネがしっかり取り付けられない部分を何度も足でドンドンと踏み入れようとするが，やはり取り付けられない。うまく取り付けられずすっきりとしない表情であるが，とりあえず寝るところができたので満足し，完成したベッドに座っていた。一方，マルチパネがきちんとはまらないことに納得のいかない４Ａ児は，基地の別の場所をしばらく見続けていた。

４Ａ児　「４Ｂ児君，いい考え思いついた。ちょっとぼくについてきて」
４Ａ児　「４Ｂ児君，ここととここどう？」
とマルチパネがきちっとはまる場所を４Ｂ児に提案する。
４Ｂ児　「おー，いいねー」
と４Ｂ児の表情がパッと明るくなり，さっきはめたマルチパネを取ろうと走っていった。
４Ｂ児　「これ運ぼう。ちょっと運ぶの誰か，手伝ってー！」
４Ｂ児と４Ａ児が目を合わせ，
４Ｂ児　「こっち運んで」
４Ａ児　「いいよー」
と言い，二人で声を掛け合い，マルチパネをはずそうとする。しかし先ほど力いっぱいはめ込もうとしたので，なかなかとることができない。外そうとするマルチパネの近くでご飯を食べようとしていた友達に，
４Ａ児　「ここは食べ物食べる場所じゃない。寝たり，歩いたりする場所。あと，座る場所」
と言いながら，その場にいた友達の力も借りマルチパネを外し，４Ａ児の提案した場所に運んでいった。
４Ｂ児　「二人で運ぼう。こっち持って」
４Ａ児と４Ｂ児は声を掛け合いながらマルチパネをはめ，ベッドをつくりあげた。
４Ｂ児　「やったーベッドになったぞー」
４Ａ児　「よっしゃー」
４Ｂ児の声に合わせて，４Ａ児も両手をあげてジャンプをしながら，出来上がったことを喜んでいた。

考察

課題

・自分も友達も納得できる基地をつくりたい　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・友達の気持ちを受け入れて，自分の考えを変えながら自分が納得できる着地点を見つける
・声を掛け合ってマルチパネを動かし，設置する
・マルチパネの組み合わせを考えて，友達が納得する場所を提案する

学んでいたと思われること

・友達に自分のアイディアを提案して，友達も自分も納得できるようにすること 友達に力を貸す
・友達の思いを受け入れ，自分のやりたいこととの折り合いをつけること　折り合い
・自分の思いや友達の思いを互いに納得する形でかなえられた満足感，達成感　満足感　達成感
・自分の考えが受け入れられ，友達が納得していることに対するうれしさ　自己有用感

11月5日（木）　「よしっ！前から行くぞ！」　試行しながら力を合わせて解決

園庭で大型構成遊具（マルチパネ）を使って４Ａ児，４Ｂ児，４Ｃ児，４Ｄ児，４Ｅ児らが遊んでいた。３つの基地が少し離れてできあがり，それぞれの基地に分かれた。遊び始めた４Ａ児と４Ｃ児と４Ｄ児はその基地を合体させよう考えた。しかし，重くて三人では動かすことができない。４Ｄ児はその場を離れてしまった。

４Ａ児　「先生できない！」

４Ｃ児　「先生，手伝って！」

教師　「どうしようねぇ」

４Ｃ児　「うーん（力を入れて押す）」

４Ａ児　「あ，動いた！下（地面）にすごい線もできた」

すると近くにいた４Ｂ児が何も言わずに一緒に押し始めた。それでもなかなか動かすことはできない。３人は一度押していた手を離してしまった。

４Ｃ児　「んもう･･･」

その場を離れていた４Ｄ児が戻ってきて，一人で押したが，動かすことができない。

４Ｄ児　「４Ａ児くんはどうしてやりたい（基地を合体したい）の？」

４Ａ児　「だって，あそこのおうちにつなげたら，階段みたいに行けるでしょ」

４Ａ児と４Ｂ児と４Ｃ児は，また基地を押し始めた。しかし，まだ動かせない。

４Ｂ児　「これもだめなのかな？」

４Ｂ児は，後ろを向いて，おしりで押し始めた。隣で４Ｄ児も同じようにおしりで押した。

４Ｂ児　「うーん（力を入れる）」

それでも基地は動かない。様子を見ていた４Ａ児が，今度は反対側にまわり，基地を一人でひっぱり始めた。すると，基地が少しだけ動いた。

４Ａ児が「よしっ！前から行くぞ！」と言い，４Ａ児は前から基地をひっぱった。基地が少し動き始めたのを見た４Ｃ児と４Ｄ児が何も言わずに反対側から押し始めた。４Ｂ児は４Ａ児の隣にすばやく移動し，４Ａ児と同じようにひっぱった。

基地を動かそうとしている様子を見ていた隣の基地の４Ｅ児が，

４Ｅ児　「おれもやってやるか」

と，隣の基地から飛び降りて，４Ａ児と４Ｂ児の間に入り，ひっぱり始めた。すると，基地と基地の間が３０ｃｍ程度まで近づいた。

幼児らは３０ｃｍの間をまたいで，隣の基地の幼児らと一緒に遊び始めた。

考察

課題

・マルチパネでできた基地を合体させたい　**達成課題**

主体的・協同的な姿

・友達に声をかけながら基地を動かす（４Ａ児）
・人数が少ないと感じ助けを求める（４Ｃ児，４Ａ児）
・いろいろな方法を試す（４Ａ児，４Ｂ児，４Ｃ児，４Ｄ児）
・友達の様子を見てそれに合わせて行動する（４Ｂ児，４Ｄ児）
・友達がやろうとしていることを自分から手伝う（４Ｅ児）

教師のかかわり

・子ども達で解決できると考え，危険がないか見守った

学んでいたと思われること

・状況を見て助けてくれる友達がいること（４Ａ児）助けてくれる友達の存在
・たくさんの友達と力を合わせるとマルチパネを動かせること　協力することの良さ
・たくさんの友達と同じ場を共有すると楽しいということ　みんなで遊ぶ楽しさ
・いろいろな方法を施行すると解決できること　試行

11月26日（木）「わからない」 **友達に聞いて解決**

４Ａ児は遊びや生活の中で，自分のすることに自信をなかなかもつことができずに，教師に「分からない」「どうすればいいの」の尋ねてくる幼児である。一斉活動の製作でも，つくり方の話は聞いているが，「わからない」「どうすればいいの」と不安になり教師のところにやってくることが多い。この日は，グループのみんなが素敵なクリスマスのオーナメントをつくることができるが大事であること，先生が近くにいないこともあるので，分からないことがあったらまず友達に尋ねてみることを話し，つくり始めた。

製作を始めてすぐに４Ａ児が材料を持って，キョロキョロしながら周りを見ている。

４Ａ児　「分かんない」

手が止まっている４Ａ児を見つけて４Ｂ児が

４Ｂ児　「え，セロテープで貼るんだよ」

４Ａ児が安心したように４Ｂ児の顔をみて，テープを手に取り貼り付け始めた。

４Ａ児　「え，こうかな」

４Ｂ児　「うんん，違う，もう一回」

４Ａ児は言葉と指で示してもらった通りに，テープで貼り付けた。

４Ｂ児　「ほんでさ，そこからボンドでぬりぬりする」

４Ａ児　「どこでぬるの？」

と言い，４Ａ児は人差し指にボンドをつけるが，

４Ｂ児　「あれ，手が反対だよ（ボンドをつける指が違う）」

４Ａ児　「あっ」

と，中指につけるはずのボンドを人差し指につけてしまったことに気付くが，どうしてよいのか分からなくなって動きが止まってしまった。

４Ｂ児　「大丈夫だよ，このまま，ここに引けばいいから（ボンドをつければいいから）」

４Ａ児が人差し指についたボンドを段ボールに塗り終えると

４Ｂ児　「はい，じゃあ，ボンド。真ん中の指につけて，ここに塗る」

４Ａ児は，教えられた通り，中指にボンドをつけて，材料に塗り始めた。

４Ａ児　「ここでいいの？」

４Ｂ児　「いいよ」

４Ａ児が塗りはじめたのを見届けた４Ｂ児は，次は俺の番だといって，自分の製作にとりかかった。

教えてもらった部分のボンドを塗り終えた４Ａ児は，また次にすることが分からなくなり不安な表情を浮かべた。

４Ａ児　「どうするの」

４Ｂ児　「巻くんだよ。こうやって」

４Ｂ児は自分のつくっているものを使って，貼り付け方を伝えた。教えてもらった４Ａ児は材料を貼り付け，それを終えるとまた周りの友達を見渡した。

４Ａ児　「ここはどうするの。どうするの４Ｃ児ちゃん」

と言い，すでにできあがっている４Ｃ児に次どうするか尋ねていた。

４Ｃ児　「これとって，そのお顔」

と，次に顔をつけることを教えた。

４Ａ児　「サンタクロースのお顔つけるシールは？」

４Ｃ児　「ちょっと待って，これ(セロハンテープ)でつける」

とセロハンテープを丸めてつけることを伝えた。

４Ａ児　「どこにつけるの？どこにつければいいの？」

４Ｃ児　「ここにつけて」
と言い，４Ｃ児は自分のつくったものを見せながら，つける場所を教えた。
次は，別の材料をオーナメントに取りつけようとするが，つけ方が分からず
４Ａ児　「セロテープどうするの。ねえ，どうするの」
４Ｃ児　「こうだよ」
と自分のものを見せながら，どのようにテープをつけるか教えた。
４Ａ児　「それで，セロハンテープどうするの」
４Ｃ児　「真ん中につけて，あ，ちがうちがう。この(モール)の真ん中につけて」
４Ａ児　「はい，真ん中につけたよ」
とテープをつけると，材料の付け方を教えてもらい，一つ目のオーナメントをつくり終えた。
４Ｃ児　「一緒なのできたね」
と４Ｃ児は４Ａ児が出来上がったことを喜び，嬉しそうな表情をしていた。４Ａ児も「うん」といって完成したことを一緒に喜び，「先生できた」と嬉しそうな表情で教師に知らせに来た。

考察

課題

・オーナメントの製作の仕方が分からない　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・分からないということを周りの友達に知らせる
・周りを見て，自分の出来ないことを教えてくれそうな友達を見つける
・つくり方が分からない友達の存在を知り，つくり方を見せながら教える

教師のかかわり

・グループのみんなが製作を完成させることができるよう事前に意識づける
・困った時には近くの友達に聞いたり，困っている友達に教えてあげたりすることを事前に促しておく
・自分たちでかかわる様子を見守り，積極的に教師がかかわらない

学んでいたと思われること

・友達から分からないことを教えてもらってできること　友達の力を借りる
・教師の力を頼らなくても，困ったことを解決できる　友達の力を借りる
・周りの友達の様子から，誰に関わることがよいのかを判断する　友達の力を借りる
・教師に頼らなくても，解決することが出来きたうれしさ　満足感　達成感

12月11日（金）「ぼく４Ｂ児君の見とる」　　納得するまで友達に聞いて解決

クリスマスリースの製作を行っている。星の形を切り抜き，紙皿に貼り付けるのだが，４Ａ児は切り取った星をどこにどのように貼り付けるのかが分からないでいた。

４Ａ児　「どうするかわかんない。どうするかわかんない」

４Ｃ児　「４Ｂ児くんに教えてもらいな」

４Ｃ児は自分の製作に忙しく，４Ａ児の教えてほしいという言葉に応えられなかった。４Ｃ児の声が耳に入った４Ｂ児が，

４Ｂ児　「ん？」

と４Ａ児にかかわってきた。

４Ａ児　「星おわったんだけど，つけるの・・・」

と切り終わった星をどこにどのようにつけるかが分からないことを４Ｂ児に伝えた。４Ａ児の言葉が短かったため，４Ｂ児は一瞬戸惑ったが４Ａ児の伝えたいことを理解して，

４Ｂ児　「のりをさ，この星の後ろにのりをつけて，そこからこの真ん中に置いてから，この，ここのやつ，つける。それで，この後ろにつけてから，ここにつける」

４Ｂ児は自分の製作を進めたいという思いがあったため，とても早口で，４Ａ児の材料を指さしながらつくり方を教えていった。４Ａ児は４Ｂ児の指先を目で追いながら説明を聞くことで精一杯の様子であった。４Ｂ児が説明を終えると，一度うなずき，のりの蓋に手をかけるが納得できない表情で，のりの蓋から手を放した。どうしても分からず困り果てた４Ａ児は

４Ａ児　「４Ｃ児ちゃん，どうするの？僕，意味わかんない」

それを聞いた４Ｃ児は，自分の手を止め，４Ａ児のつくった星を指さしながら，

４Ｃ児　「星とった（切り取った）やろ，これ」

４Ａ児　「うん，とったよ」

と４Ａ児はつくった星を手に取った。それを見た４Ｃ児は

４Ｃ児　「で，そんで」

といい，４Ａ児の向かい側に座っていた４Ｃ児が，４Ａ児のすぐ隣まで歩いてきて，

４Ｃ児　「これ，ここにのりでつけて」

４Ａ児　「これ？」

４Ｃ児　「全部（のりを）塗って」

と製作した星とそれを貼り付ける場所を一つ一つ指さし，確認しながら伝えていった。

４Ａ児は頷きながら聞き，のりの蓋を開けた。

４Ａ児　「ここに？ここに？」

と４Ａ児はのりをつける場所を最後にもう一度確認しようと４Ｃ児に声をかけた。すると製作がひと段落してきた４Ｂ児が

４Ｂ児　「後ろに，白色の後ろに」

とのりをつける場所を教えようと声を掛けてきた。４Ｃ児はその様子を見て４Ａ児に声をかけることはなく，自分の製作に再び取り組み始めていった。４Ａ児は言葉だけでの説明にはやはり不安な表情を浮かべていた。

４Ａ児　「僕，４Ｂ児君の見とる」
と，４Ｂ児がのりを塗り始める様子を見てから塗りはじめようと，４Ｂ児がのりをつけ始めるまで待っていた。４Ｂ児もその言葉を聞きながら，
４Ｂ児　「じゃあ，僕が下にしている（裏に塗っているところ）のを見てたら」
といい，のりをつけ始められるように，製作のスピードを上げていった。４Ｂ児はのりをつけ始められるところまで進むと，４Ａ児に聞こえるように
４Ｂ児　「よーし，そこからのりを後ろにベチャッとはろうか」
と言いのりをつけ始めた。４Ａ児はその様子を見て安心した表情でのりを塗り始めた。

考察

課題

・のりをつける場所を分かるようになりたい（４Ａ児）　**解決課題**
・製作の仕方が分かるようになりたい友達を助けたい（４Ｃ児，４Ｂ児）　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・分からないということを周りの友達に知らせる
・やり方を知るために友達に教えてもらおうとする
・自分が納得しやり始められるまで教えてもらったり，やり方を見せてもらったりすること
・友達の理解の仕方に応じて，教え方を変える
・困っている友達の様子を気にかけながら，必要に応じてかかわろうとする

教師のかかわり

・困った時には近くの友達に聞いたり，困っている友達に教えてあげたりすることを事前に促しておく
・自分たちでかかわる様子を見守り，積極的に教師がかかわらない

学んでいたと思われること

・友達から分からないことを教えてもらってできること　友達の力を借りる
・自分が納得できるまで粘り強く教えてもらおうとすること　友達の力を借りる
・やり方が分かり，自分ですることができた嬉しさ　満足感　達成感

1月14日（木）　「ちょっと貸して４Ａ児やりたい」　友達を手伝って解決

登園後しばらくして，４Ａ児と教師が話をしているところに，４Ｂ児が近づいてきた。手にははさみと筒状の菓子箱のふたを持っていた。

４Ｂ児　「うーん。うまくいかないんだよなぁ」

困った様子で４Ｂ児が，教師と４Ａ児の隣に座ったので，様子を見ていると，４Ｂ児がはさみで箱のふたに穴を開けようとしているのがわかった。以前に４Ｂ児は，同じ箱のふたに穴を開けようとして，手を切ってしまったことがあり，そのことを思い出しているのか，慎重にはさみを使っているようだった。

４Ｂ児　「なかなか開かないんだよなぁ」

はさみの刃を閉じたまま，いろいろな角度にしながら，穴を開けようとしているが，なかなか思うように穴が開かない。

自分から進んで友達とかかわることの少ない４Ａ児にも，４Ｂ児が困っていることが伝わることを願って，教師から声をかけた。

教師　「４Ｂ児くん，ここに穴開けたいんだ」

４Ｂ児　「そう。ここ（ふた）に剣を刺すの。でも，なかなか開かないんだよね」

すると，その様子を隣で見ていた４Ａ児が，

４Ａ児　「ちょっと貸して。４Ａ児やりたい」

と，４Ｂ児の持っていた箱のふたとはさみを持ち，穴を開け始めた。

４Ａ児ははさみの刃を開き，片方の刃を使って穴を開けようとした。その様子をみた４Ｂ児が，

４Ｂ児　「それって，手切れるから気をつけないと」

と声をかけた。４Ａ児はその声には答えず，にこっと笑い，はさみをグリグリとふたに押し付けながら少しずつ穴を開け始めた。すると，はさみがふたを貫通し，穴が少し開いた。４Ａ児は穴が開いたところにさらにはさみを入れ，穴を広げた。

４Ａ児　「ほら」

４Ｂ児　「あ，できた」

４Ａ児　「はい」

４Ａ児は４Ｂ児にはさみとふたを手渡した。受け取った４Ｂ児は

４Ｂ児　「ありがと」

と，４Ａ児に声をかけ，剣をふたに刺して嬉しそうにたたかいごっこに出かけていった。

考察

課題

・困っている友達を助けたい　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・困っている友達に自分から手を貸す（４Ａ児）

教師のかかわり

・普段はあまり自分から進んで友達に声をかけない４Ａ児が，友達にかかわるきっかけになればよいと考え，４Ｂ児に話を聞いて何に困っているのかをはっきりさせた

学んでいたと思われること

・ふたに穴を開けることができた（４Ａ児）満足感

・困っている友達を助けることができた（４Ａ児）自己有用感

1月28日（木）　「これはずさなくてもいけるよ」　教えてもらって解決

４Ａ児は，友達とのかかわりの中で，自分中心で物事を考えることが多く，相手の様子を気にすることが苦手な幼児である。４Ｂ児は，そんな４Ａ児が気になるようで，いざこざになることも多い。

弁当の準備をしている４Ａ児が，自分の水筒と友達の水筒のひもをさわりながら困っていた。

４Ａ児　「これ，からまってるんだ」

と，周りを見回しながら話した。すると，近くにいた４Ｂ児が近づいてきた。状況を察し，

４Ｂ児　「うーん，たしかにこれはきつそう」

と話し，ひもを指でたどった。それを見た４Ａ児は，

４Ａ児　「４Ａ児のここ（水筒のひもの付け根）はずす？」

と，水筒本体からひもをはずすことを提案した。

しかし４Ｂ児は少し考え，

４Ｂ児　「いや，これはずさなくてもいけるよ」

と，ひもと水筒本体を交差させながらからまっているひもをほどこうとした。

４Ａ児　「でもここ，はずれるよ？」

４Ａ児は，ひもを本体からはずすことでひもがほどけると考え，また提案した。

４Ｂ児　「大丈夫！こっちがこうで，こっちが・・・ほら！」

ひもと水筒本体を交差させることで，からまっていたひもをほどくことができた。４Ａ児は，自分の水筒をもって，にこにこしながら弁当の準備に戻っていった。

考察

課題

・水筒のひもがからまって取ることができない　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・困っていることを周りの友達に伝える

・困っている友達に自分から手を貸す

教師のかかわり

・子ども達同士のかかわりで解決すると考え，見守った

学んでいたと思われること

・困ったときに助けてくれる友達がいる（４Ａ児）助けてくれる友達の存在

・友達の提案を受け入れるとうまくいくことがある（４Ａ児）友達の提案を受け入れる

・友達を助けることができた（４Ｂ児）自己有用感

・からまっているひもがほどけた（４Ｂ児，４Ａ児）達成感

5歳児事例

5月15日（月）　「じゃあ，１回やってみて，楽しかったらありにせんけ？」　話し合って解決

５A児，５B児，５C児，５D児，５E児，５F児，５G児と教師がひょうたん鬼をして遊んでいると，５H児が鬼のマークがついた輪をつくって来て，その輪を投げ始めた。５H児が急に入ってきたことに驚きと戸惑いを感じたのか，遊びが中断した。教師は一緒に遊んでいた他の幼児と共に教師も５H児に話を聞きに行った。

５C児　「どしたん？」

５H児　「鬼がこれを投げるのはどう？」

と５H児は新たな遊び方を提案する。５D児，５A児らは賛成するが，５C児，５F児，５B児らは反対した。「いい！」「いやだ！と言い合いになり，話が進まなくなった。

教師　「５D児君達はどうして賛成なの？５C児ちゃん達はどうして反対？」

５D児　「だってこっちの方が面白そうやもん」

５C児　「えー，私タッチする方がいい」

それぞれ理由を話すが，中々決まらない。すると，反対していた５F児が，

５F児　「じゃあ，１回やってみて，楽しかったらありにせんけ？」

５D児　「いいね！」

５C児　「そうしよう！」

他の幼児もそれぞれ逃げる場所に散らばっていった。そして５H児の提案を取り入れてやってみることになった。その後すぐに「面白いね，これ！」とみんなで輪を投げて遊ぶことを楽しんだ。

考察

課題

・新しい遊び方に対し，賛成と反対に分かれて遊びが進まなくなったこと　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・目的を共有している（皆でひょうたん鬼をして遊びたい）
・友達と相談する
・自分の気持ちに折り合いをつける（反対していた５C児，５F児，５B児ら）
・それぞれの思いをうけ折衷案で解決しようとする（反対していた５F児が提案している）

教師のかかわり

・話し合いが進むようそれぞれが理由を話すことができるように促す

学んでいたと思われること

・最初は戸惑った友達のアイディアの面白さを受け入れること　他者を受け入れる
・試した上で判断する，という解決方法　試行
・友達の思いを受け入れて遊ぶと楽しい，という感覚（反対していた幼児）
　他者理解　新しい体験
・自分の考えた遊び方を受け入れてもらえた嬉しさ（５H児）　自己肯定感
・考えがまとまった気持ちよさ　一体感
・みんなで遊びが再開できる喜び　充実感

６月１６日（火）　「それなら１２対１２ね」　　思いを出し合い解決

朝から幼児が集まりサッカーをしている。人数をそろえることに関心をもち始めた幼児らは，今何人になったのか口々に数えながらサッカーをしていた。人数を確かめるために５Ａ児が「集まれー！」とみんなを集めた。集めてみると，ピンクチームが６人，白チームが５人とわかった。点数は１２対３。

「あと１人（白が）足りない！」「５Ｂ児くん入るって！」「よしやろう！」

５Ｃ児（白）「０対０からにしたい」

５Ａ児（白）「そうだよ，０対０にしよう」

５Ｄ児（ピ）「なんでだよ！１２対３だぞ」

５Ｅ児（白）「０対０だ！」

５Ｄ児（ピ）「１２対３！」

「０対０！」「１２対３！」「０対０！」「１２対３！」

点数だけを怒鳴り合い，話し合いにはならない様子だったので，教師も加わることにした。…①

教師　「白チームさんはどうして０対０がいいの？」

５Ａ児（白）「だって人数違ったから，６人と６人で最初からする」

５Ｄ児（ピ）「なんで！１２点もがんばってとったんだぞ！そんなのずるいぞ」

５Ｅ児（白）「ずるいのはそっち！１人多かったんだから！」

５Ｄ児（ピ）「白が弱いからだろ！」

５Ｅ児（白）「弱くない！」

「弱い！」「弱くない！」「弱い！」「弱くない！」

５Ｄ児（ピ）「もう！！１２点だって言ってるのに！（泣く）」

教師　「ピンクチームさんはどうして１２対３がいいの？」

５Ｄ児（ピ）「だって１２点もとったんだもん」

教師　「がんばったから？０はいやなんだね」…②

５Ｄ児（ピ）「うん」

５Ｆ児（ピ）「ぼくはどっちでもいい」

５Ｇ児（ピ）「ぼくも。はやくやりたい」

「いつもこうなるんだよな～」と２人でつぶやいている。いつもならいざこざになるとすぐに場を離れる５Ｇ児と５Ｆ児が，この日はまだサッカーをやりたいようで話し合いが進むのを待っていた。…③

教師が全員の思いを確かめてみると，０対０から始めたい幼児が多いことが５Ｄ児にも周りの幼児にも伝わる。…④

教師　「どうする？」…⑤

５Ａ児（白）「このままじゃ時間なくなっちゃう」

教師　「そうだねぇ」…⑤

５Ｄ児（ピ）「じゃぁもういいよ！それなら１２対１２ね」

５Ｅ児（白）「うんそれならいい」

５Ａ児（白）「ぼくもそれならいい」
５Ｃ児（白）「それって０対０と一緒じゃない？」
５Ｄ児（ピ）「違うよ！１２点！！いっぱい点数あげたんだからちゃんとがんばってよね！」
周りの幼児も１２対１２に納得し，すぐにゲームが再開した。

考察

課題

・人数がそろったところで，ゲームを 12 対３から始めるか０対０から始めるか　　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・勝ちたいという思いをもちサッカーを楽しむ
・友達に自分の思いを伝える
・話し合いの場に参加し，自分達の遊びを続けようとする
・自分の思いをもち生じた課題に向き合う
・みんなが納得する方法を考えようとする

教師のかかわりや意図

①なぜそう思うのか，幼児に理由を問いかける
②５Ｄ児の 12 点に対する思いを代弁し，他の幼児にも伝わるようにする
③場を離れがちな幼児らも，その場にとどまり一緒に課題解決に向かってほしい
　そのために，解決までにかかる時間を教師がかかわることで短くしたい
④全員が自分の思いを表出し，友達の思いを知る場を設け，考えるきっかけをつくる
　５Ｇ児と５Ｆ児について，「どっちでもいい」も受け止め，その場に位置づける
⑤解決の方法を幼児に委ねる

学んでいたと思われること

・自分と異なる友達の思いを理解しようとする　　友達の考えを聞く
・５Ｄ児のがんばった思いや新しくゲームを始めたい思いを受け入れ合う　　折り合いをつける
・友達の思いを汲んだ解決策を提案し，受け入れてもらえる嬉しさ（５Ｄ児）
　解決に向けて考える　受け入れてくれる友達　自己有用感
・自分も納得できる提案を受け入れる（５Ｄ児以外の幼児）　　友達の考えを受け入れる
・場を離れず話し合いに参加することでまた楽しさを感じられることを知る（５Ｇ児，５Ｆ児）
　あきらめない　解決の過程を知る
・数字を使って思いを表出する　　数の使用　勝負へのこだわり
・再びサッカーを始められる楽しさ　　すっきり感　満足感
・話し合いが長くなると遊ぶ時間が短くなる感覚　　時間の感覚

8月31日（月）　「５Ｃ児くんじゃない？」　　**教えてもらって解決**

新学期になり新しい生活グループとなった。連絡帳に今まで貼ってあった生活グループを表す色のビニールテープを剥がし，新しいグループの色に張り替えている。水色グループは５Ａ児，５Ｂ児，５Ｃ児，５Ｄ児の４人で，５Ｄ児はこの日休みである。

５Ａ児　「先生，（いつも入れてある）箱の中に水色のテープが無い！」

教師は自分で何とかして欲しいと思い，友達とかかわることができるように，

教師　「無いはずはないと思うよ，誰か使ってたし」

と伝えた。５Ａ児と教師の会話を聞き，５Ａ児と同じ生活グループの５Ｂ児が声をかけにきた。５Ｂ児はもう貼り終えている。

５Ｂ児　「５Ｃ児くんじゃない？」

５Ａ児　「そうや，５Ｃ児くんしかない！」

５Ａ児　「５Ｃ児くん，水色のテープ知らん？」

５Ｃ児は困った顔をしている。５Ａ児と５Ｂ児は水色のテープを探しまわっている。

５Ｃ児　「そうや」

思い出した様に５Ｃ児は自分の引き出しから水色のビニールテープを取り出してきて，無言で５Ａ児に渡した。

５Ｂ児　「５Ｃ児くん，いつもここに入れるげんよ，ついてきて」

５Ｂ児は５Ｃ児を連れていつもビニールテープがかたづけてある場所を指差し教えていた。５Ｃ児は何度もうなずいていた。

考察

課題

・貼らなくてはいけない水色のビニールテープが無い　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・自分達でビニールテープを探している

・ビニールテープをかたづける場所を進んで教えにいき，次に困ることの無いようにしている

・同じグループの幼児が困っていることを，一緒に解決しようとしている（５Ｂ児）

教師のかかわり

・教師に困っていることを訴えてきたものを，友達とのかかわりへと繋げる声かけ

学んでいたと思われること

・あるべき場所にかたづけておかないと，他の人が困る（５Ｃ児）　決まりを守ること

・同じグループの人が自分の様子を見て助けてくれる（５Ａ児）　助けてもらう体験

・困っている友達を助けてあげることができたこと（５Ｂ児）　自己有用感

９月16日（水）「お願い，水色にしてあげて？」こだわっている友達の気持ちを切り替えて解決

弁当の準備をするため，幼児が机を運んでいた。この時期，机を取りに来る順番を教師が決めることはせず，生活グループの４人全員がそろったところから，幼児が自分達で机置き場へ行き４人で運ぶことにしていた。すると，オレンジグループの５Ａ児，５Ｂ児，５Ｃ児と，水色グループの５Ｄ児，５Ｅ児，５Ｆ児，５Ｇ児は１つの机の取り合いをしながら７人で机を運び始めた。教師が「どうしたの？」と声をかけると，幼児は「この机は水色だ」「オレンジだ」と言いながら机を置き，どちらのグループが先だったかを言い合っている。教師も一緒に聞いていると，５Ａ児以外の幼児はオレンジグループの５Ｈ児が来ていなかったので水色グループが先だと思っているようだが，５Ａ児だけは自分達のオレンジグループが先だと思っていることがわかった。

５Ａ児　「５Ｈ児ちゃんがきてたらオレンジだったんだよ」

５Ｂ児　「ねぇ５Ｄ児くんたち・・・」

５Ｂ児は５Ｄ児と５Ａ児の間に座り，２人の顔を交互に見ながらつぶやいた。水色グループが先だったという状況を理解し，けんかを止めるにはどうしたらよいかと困った表情をしている。

５Ｅ児　「これ水色だよ！５Ｉ児くんたちも言ってたもん」

５Ａ児　「だって・・・」５Ａ児はずっと机から離れない。

５Ｂ児　「５Ａ児くん５Ａ児くん５Ａ児くん，水色にしてあげて？」

５Ｄ児　「これ水色だよなぁ！５Ａ児くんだけ違うこと言う」

５Ｅ児　「もう，このままじゃ時間がすぎるだけじゃん」

５Ｂ児は５Ｄ児と５Ａ児の顔を何度も見る。

５Ｂ児　「ねぇ，５Ａ児くん。お願い，水色にしてあげて？」

５Ｄ児　「もう！運ぼう！」

５Ｄ児が５Ａ児の手を机から離すように押すと，５Ａ児は押し返したり振り払ったりし，たたき合いになりそうな雰囲気になる。５Ｄ児はたたく寸前でその手を止めたがにらみ合いは続く。すると，５Ｂ児が机置き場に行き５Ａ児を呼んだ。

５Ｂ児　「５Ａ児くーん！しょうがないからこの机（運ぼう）！」

その様子を見ていた５Ｃ児も机置き場に行き，２人でオレンジグループの机を運び始めた。二人がいなくなったことで，水色グループは机を運んで行ってしまった。５Ａ児はすねた表情で立ち上がり，オレンジグループの机の脚を立て始めた。脚を立てた後５Ａ児は机に手をかけようとせず，５Ｂ児と５Ｃ児２人の力では机を起こすことができない。

５Ｂ児　「５Ａ児くん！（持ち上げて）」

５Ｃ児は５Ａ児の側へ行き，何も言わずに目をパチパチさせた。５Ｂ児は持ってほしい箇所を指で差し，手振りで５Ａ児に机をしっかり持ってほしいことを伝えた。

５Ｂ児の合図にしぶしぶ合わせながら，５Ａ児も一緒に机の準備を終えた。

考察

課題

・机の取り合いになり運べない　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・困ったときにみんなで話し合いの場をもつ

・こだわる友達の気持ちを切り替えようとする

教師のかかわり

・７人で机を運んでいる様子を捉えた後，状況を整理するきっかけをつくるため声をかける

・机でけがをすることがないか，けんかがヒートアップしけがをしないか留意しながら，話し合いの様子を見守る

学んでいたと思われること

・相手の言っていることが正しいことを受け入れる（５Ｂ児，５Ｃ児）　状況の理解

・納得できない友達の気持ちを理解しながら，友達が気持ちを切り替えられるよう，言葉や動作で伝える（５Ｂ児，５Ｃ児）　友達の気持ちを切り替えようとする

・かかわってくれる友達がいる（５Ａ児）　気にかけてくれる友達の存在

9月28日（月）「５Ｃ児ちゃんのせいで負けた！！」　　クラスで話し合い解決

１勝１敗で迎えたほしつきリレーの３回戦目。後ろが早くなるようにしようということになり並び始めたが，５Ａ児をアンカーにしたい５Ｂ児と，自分がアンカーを走りたい５Ｃ児とでリレーが始まっても言い合いが続いていた。

５Ｂ児　「せめて最後じゃなくて１つ前にして」「お願いだから」

５Ｃ児　「やだ，ここがいい」

５Ｂ児　「もう！！最後はやめて，前行って！勝ちたいでしょ！」「どーいーて！」

５Ｃ児　「やだー！５Ｃ児はここ」

バトンをもらう直前まで５Ｃ児に話し続けていた５Ｂ児は，慌ててバトンを受け取り走り始めたが，半周過ぎから泣き始め，号泣しながらゴールした。結局５Ｃ児がアンカーで走り，つき組が負けてしまう。

５Ｂ児が泣きじゃくっているので，保育室にみんなで集まり，まずは５Ｂ児の思いを聞いた。

５Ｂ児　「５Ｃ児ちゃんのせいで負けたーー！！！（号泣）」

教師　「５Ｂ児くん，勝ちたかったんだよね」

幼児　「ぼくも！」「私も！」「勝ちたかった！」

５Ｂ児　「うっうっ・・・・(号泣)」

幼児は何とも言えない表情で泣いている５Ｂ児を見つめている。

教師　「５Ｃ児ちゃんはどう思っていたの？」

５Ｃ児　「５Ｃ児は一番後ろ走りたかったの」

５Ｄ児　「一番後ろは早い人が走るんやで」

５Ｅ児　「そうだ！」

５Ｃ児　「だって・・・・・走りたかったんだもん」

教師　「みんなは５Ｃ児ちゃんにどこを走ってほしかったの？」

幼児　「真ん中らへん！」

教師　「どうして？５Ｃ児ちゃんが後ろじゃだめなの？」

５Ｆ児　「早い人が後ろを走るのが勝つ作戦だった！」

５Ｇ児　「５Ｃ児ちゃんが真ん中走ってたら勝ってたかもしれないよ」

５Ｃ児　「やだ」

５Ｈ児　「５Ｃ児ちゃん，自分がどこにいても走ることは一緒だからどこでもがんばったらいいんじゃないの」

５Ｃ児　「いやなの」

５Ｅ児　「やだじゃない！だめだ！」

５Ｄ児　「そう！だめや！そんなんじゃ勝てん」

幼児は口ぐちに「だめだ！」「だめだ！」と言い始め，５Ｃ児は耳をふさいでしまう。

「あっ！」「聞いてない！」「ちゃんと聞いてよ」

５Ｉ児　「でも，５Ｃ児ちゃんばっかり言ったらかわいそうだよ・・・」

教師　「みんなは勝ちたいからその作戦を立てていたんだよね」

幼児　「うん」
５Ｈ児　「５Ｃ児ちゃんはどう思ってるの？勝ちたくないの？」
５Ｃ児　「５Ｃ児は勝っても負けてもどっちでもいいの」
幼児　「えぇ？」「どっちでもいい？！」「そんな気持ちで後ろ走ったらだめや！」
５Ｊ児　「あのね，５Ｃ児ちゃんが一生懸命走る練習して，はやーくなってがんばるんなら，後ろでもいいと思うの。でも，どっちでもいいって思って走るのはだめだと思う」
５Ｋ児　「５Ｊ児ちゃんみたいにね，公園で走る練習したりしてね，がんばるんならいいと思うよ」
教師　「そっか，５Ｊ児ちゃんが練習がんばっているのを５Ｋ児ちゃんは知っているんだ。一生懸命な気持ちで練習して，がんばるんならいいよって２人は思うんだね」
５Ｊ児・５Ｋ児　「うん」
教師　「他にもおうちで練習している人いるの？」
「してる！」「公園！」「だから早くなったんだ」多くの幼児が手を挙げる。
教師　「そっか，みんなはがんばる気持ちも大事だし，早く走るってことも大事なんだ」「って言っているのを聞いて，５Ｃ児ちゃんはどう思う？」
５Ｃ児　「５Ｃ児，そんなにがんばれない。練習もできないの」
幼児　「えぇぇ！」「じゃぁだめやー！！」「練習しないと早く走れないよ」「負けちゃう」
５Ｈ児　「ねーえ，みんなは勝ちたいって思っているでしょう。その気持ちを５Ｃ児ちゃんはわかるの？」
５Ｃ児　「わかる・・・(うなずく)」
５Ｈ児　「じゃぁみんなの気持ちももうちょっと考えて。みんな勝ちたいんだよ」
５Ｌ児　「でも，５Ｃ児ちゃんのせいだけで負けたわけじゃないと思う」
教師　「負けたのは５Ｃ児ちゃんのせいだけじゃないの？」
５Ｌ児　「うん，みんなで走るから」
教師　「そっかぁ。５Ｃ児ちゃんは，みんなの勝ちたいって気持ちわかるんだよね」
５Ｃ児　「(うなずく)」
「ここまで聞いて，明日はどうしようかなと思っている？」
５Ｃ児　「５Ｃ児・・・どこでもいいの」
幼児　「ん？？」「どこでも？？」
５Ｃ児　「真ん中でも前でもどこでもいいの」
教師　「どうして？さっきと違うねぇ？」
５Ｃ児　「うん，聞いてたらもうわかったの」
教師　「みんなの気持ち？だからかえたの？」
５Ｃ児　「(うなずく)」
幼児　「はぁ～，よかった」「長かったー！」「５Ｃ児ちゃん，真ん中よりちょっと後ろを走ったらいいよ」「それが嫌なら前の方でもいいからね」
５Ｃ児　「うん，わかった」
泣いていた５Ｂ児も，話の途中からみんなの後ろに座り，静かに聞いていた。

考察

課題

・みんなで決めた作戦を５Ｃ児にも受け入れてほしい　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・クラス全員が話し合いの場に参加する

・クラスで生じた課題に向かい，自分の思いを伝えたり，友達の思いを聞いたりする

教師のかかわりや意図

話し合いを始める前に，それぞれの幼児への願いをもちかかわった。

・５Ｃ児が一方的に責められることになるかもしれないが，５Ｃ児にはクラスの友達の思いを知ってほしい

・５Ｂ児には，５Ｃ児のせいだけでないことも気づいてほしい

・他の幼児には，いざこざになっていた２人の状況や気持ちを知らせ，クラスみんなの問題であることをみんなで話し合う場を通して感じてほしい

・５Ｃ児だけを責める状況に，だめじゃないかと言える幼児が出てきてほしい

学んでいたと思われること

・友達の思いを知る（５Ｃ児）　友達の思いを知る

・友達の思いを知り，自分の考えを変える（５Ｃ児）　自分の考えを変える

・自分の思いや考えをもち，みんなの場で伝える　自分の思いや考えを伝える

・５Ｃ児の気持ちを思いやりながら，自分の考えを伝える　思いやりながら自分の考えを伝える

・自分達の思い（勝ちたい気持ち，みんなで一生懸命走らないと勝てない気持ち）をクラスみんなで共有しようとする　クラスの友達と同じ思いになる

・いざこざを解決できた（ような）安心感　安心感　満足感

10月1日（木）　「普通なんじゃない？」　　クラスで相談して解決

運動会で行うクラス対抗リレーの練習に，どうしたら勝てるかクラスで考えながら取り組んできた。これまでに好きな順番に並んだり，足の速い人から順に並んだりといった並び方を試してきている。前日は，２回戦のうちの１回戦目は足の速い人から並び，２回戦目は足の遅い人から順に並ぶ，という並び方を試したが，それでもどちらも負けてしまった。あまり時間が無かったこともあり，前日は園庭でそれぞれが自分の足の速さを考えながら急いで並んだ。今日は落ち着いて相談できるよう保育室で話をしてから園庭に出ることにした。

今日はどんな並び方にするのか尋ねると，昨日はバトンを落としてしまったから，今日も足の遅い人から並んで試したい，という声が多かった。すると，５Ａ児が「昨日は５Ｂ児が並び方を決めていた」と話した。他の幼児も５Ｂ児が勝手に決めていたと話す。教師が５Ｂ児に尋ねると，５Ｂ児は「……。だって，誰かが決めないとダメだったから…。時間かかっちゃうから…。だって，早く決めないと２回目できなくなっちゃうから…。」と泣きながら答える。５Ｂ児が時間がかかると次のリレーができなくなると考えて仕方なく１人で決めていたことが分かり，きちんとみんなで相談して決めようと，並び方を考えている。

５Ｃ児　「じゃあ，自分が速いと思う人は後ろで，遅い人は前に集まろう」

５Ｄ児　「そうだ，並んでみよう」

それぞれが自分の思う速さの場所に並びだしたが，数人が自分がどこに並んだらよいか分からずウロウロとしている。

教師　「あなたたちはどうしたの？」①

５Ｅ児　「どっちかわからない。遅くないけど…」

教師　「みんな，どっちか分からない人がいるんだって」

５Ｆ児　「５Ｅ児ちゃんは遅くないんじゃない？」

５Ｂ児　「そうだよ，遅くないよ」

５Ｇ児　「普通なんじゃない？」

教師　「なるほど，遅いと速いじゃなくて，普通っていうのがあるってことね」②

５Ｄ児　「じゃあ普通の人は真ん中ね」

大体が速いか普通の所に並び，隣になった友達と自分の方が速い，遅いと話している。遅い所に並んでいた５Ａ児と５Ｈ児が不安そうな顔をしていた。

教師　「二人はここでいいの？」①

２人ともうなずく。

５Ｉ児　「５Ｈ児ちゃん遅くないよ，僕より速いもん」

５Ｊ児　「５Ａ児ちゃんだって速い！」

教師　「だって。どうする？」

５Ｈ児，５Ａ児　「あっち（普通の所）行く」

２人はホッとした様子で普通の所に並んだ。みんなが一通り並び終えると，「よし！できた！」「できた！」「これでよし！」と口々に話し，リレーに向かっていった。

考察

課題

・みんなが納得できる並び方で並びたい　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・自分達で並び方を考え，話を進める

・困っている友達のことを考える

教師のかかわり

①幼児同士の話し合いを見守りながら，様子に応じて状況を知らせる

②課題を焦点化する

学んでいたと思われること

・友達と一緒に共通の目的をもって取り組むこと　共通の目的

・友達の足の速さを自分なりに判断して伝える　他者理解

・友達が後押ししてくれる嬉しさ（５Ａ児・５Ｈ児）　安心感

・自分の並ぶ場所を自分で決める　自己決定

・友達の意見を聞いて自分の考えをもつ　自己決定

10月21日（水）　「ちょっとまって！今砂が詰まっとるげんて！」　友達と声をかけあって解決

砂場で５Ａ児，５Ｂ児，５Ｃ児，５Ｄ児，５Ｅ児が水路をつくって遊んでいる。教師はその隣で一人で山をつくり始めた。次第に山が高くなり始めると，水路づくりをしている幼児も興味をもったようだが，自分の遊びを続けている。そこへ，５Ｆ児がやってきて教師の様子を近くで眺めている。教師はそれに気づくと山の頂上から細い溝を掘り，ポケットからドングリを取り出して何度か転がして見せた。５Ｆ児はすぐに「わかった！僕も混ぜて！」と教師と一緒に遊び始めた。

何度もドングリを転がして遊んでいると，

５Ｆ児　「トンネルつくったらいいんじゃない？」

と言ったので，二人でトンネルをつくることにした。上手くいかずに色々試していると，そこに５Ｇ児がやってきて，しばらく様子を見ていた。５Ｆ児と教師が何をしたいかを理解した５Ｇ児は，「あぁそうだ，棒使えばいいんじゃない？」と木の枝を探して持ってきて，それを使ってトンネルを掘り始めた。すると，隣で水路をつくっていた５Ｃ児，５Ｂ児，５Ａ児，５Ｅ児がいつのまにか一緒にトンネルを掘り始めた。教師は幼児が自分達で遊びを進め始めたので，見守ることにした。

５Ｆ児　「つながった？」

５Ｇ児　「だめ，まだつながってない」

５Ｅ児　「もっと下を掘らないといけないんじゃない？」

５Ｇ児　「よっしゃ，つながった」

５Ｂ児　「転がしてみよう！」

５Ｂ児がドングリを転がすと，途中で落ちてしまう。

５Ｆ児　「ここがだめだ，ここから落ちる」

５Ｅ児　「落ちないようにしないと」

５Ｆ児と５Ｃ児が，ドングリが落ちてしまう箇所に砂で壁をつくったり，コースに積もってしまった砂を取り除いたりしている。５Ｂ児や５Ａ児はドングリを転がし，５Ｅ児はどこが上手くいっていないか，山の周りを回りながら見て知らせている。教師はトンネルを通った先のゴール地点でドングリが来るのを待ちながら応援していた。砂がすぐ崩れてしまうので簡単にはつくることができず，転がしては直しという状態がしばらく続いた。そして，

５Ｂ児　「転がしていい？」

５Ｃ児　「ちょっとまって！今（トンネルに）砂が詰まっとるげんて！」

５Ｃ児が砂を取り除き，「いいよ！」と知らせる。５Ｂ児がドングリを転がすと，ドングリは頂上からトンネルを通ってゴールまで転がった。

みんな　「やったぁー！！」

最後まで上手く転がったことをみんなで喜び合い，何度もドングリを転がして楽しんだ。

考察

課題

・最後までドングリを転がしたい　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・友達と声をかけ合ってうまくいかない所を見付ける

・友達の様子を見ながら自分のできることをする

教師のかかわり

・新たな遊び方を示す

・幼児だけで遊びを進める様子を見て，直接かかわらずに見守るようにする

・遊びの仲間となり共に楽しむ

学んでいたと思われること

・状況を見て自分のできる役割を見つけて行動する　役割

・役割に分かれて取り組むと１人ではできないことができる　友達と遊ぶ良さ

・役割に分かれてやり取りをする楽しさ　応答

・共通の目的に向かって力を合わせる楽しさ　共通の目的

10月26日（月）　「わかった，俺ら段ボール切るわ。なあ！」　役割分担して解決

幼稚園のみんなでお祭りごっこをしようと，５才児，４才児，３才児の計５クラスを混合した８つの縦割りグループで８つの店をつくっている。

迷路屋さんをつくるグループは，大型積木で迷路の形をつくってから，その積木に段ボールを貼り付けて壁をつくろうとしている。５才児は５A児，５B児，５C児，５D児，５E児の５人で，４才児は７人，３才児は３人である。段ボールは教師が折りたたんであるものを何枚も用意しておいた。

５B児　「よし，じゃあ壁つくろう！」

５A児　「先生，段ボールは？」

教師　「ここに沢山もってきてあるんだけど，こんなんだわ」

と教師が段ボールが折り畳まれていて，そのままでは壁として使うことができない状態を見せた。

５A児　「わかった，俺ら段ボール切るわ。なあ！（５B児の方を見る）」

５B児　「うん，俺ら切るし，誰か貼っていって」

５C児　「私も切る」

５D児　「じゃあ私貼るわ」

５E児　「５E児も」

５A児　「じゃあうさぎさん（３才児）達も段ボール貼っていって」

段ボールカッター，ガムテープを受け取ると５才児５人はパッと散らばっていき，作業を始めた。年下児も５D児や５E児について行き，ガムテープを切ってもらって貼ったり，壁が倒れないように押さえたりしていた。

考察

課題

・段ボールを使って迷路をつくりたい　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・年下児が扱いにくい段ボールカッターを自分達がすすんで使う

・自分達で役割を分担する

教師のかかわり

・幼児が活動をすすめる様子を見守る

学んでいたと思われること

・自分達で役割を分担して取り組むこと　役割

・様々な人が存在する中で活動をすすめること　調整力

・多くの人数で一緒にものをつくる一体感　一体感

11月5日（木）「教えるのは大変なんだよ」　　年下児の思いを聞きながら解決

なかよしウィークのかたづけをした次の日，４才児の４Ａ児は５才児クラス前テラスの製作コーナーに来て５才児の射的をじっと見つめ，教師に思いを伝えた。

４Ａ児　「ぼくもこれつくりたい…」

教師　「先生もつくりかたわからないんだ。年長さんはわかるよ？」

すでにつくっていた５Ａ児，５Ｂ児らが４Ａ児の姿に気づいた。目が合うと，４Ａ児は小さな声で「ぼくもつくりたい…」と５才児に伝えた。するとずっと機会をうかがっていた５Ｃ児も「ねぇぼくもつくりたい！つくってくれなくていいから，つくり方教えてくれない？」と言う。

５Ａ児　「んーとね，教えるのは大変なんだよ。時間かかるし。だからつくったほうが早いんだよ。つくるならこれ終わったらね。もう５個もつくってるんだよ。」

５Ａ児は５Ｃ児の分をつくり終えると，４Ａ児の射的をつくるために３つの輪ゴムを組み合わせ始めた。５Ａ児がつくっている間，４Ａ児はその様子を見たり，遊び始めている５才児を眺めたりしている。できあがると４Ａ児が持っていた紙芯を受け取り，

５Ａ児　「こっち切るか，こっち切るか，どっち？」と尋ねた。

４Ａ児が切りたいと思う方に指をとんとんと当てると，５Ａ児はその位置にはさみで切り込みを入れて輪ゴムをつけ，ガムテープで固定し完成させた。

５Ａ児　「この中（芯の中）にこういうの（玉）を入れてね，飛ばすの。折り紙を丸めるんだよ」

４Ａ児　「折り紙…」

４Ａ児は製作棚に移動し折り紙を探し始めたが，折り紙は見当たらない。

５Ａ児　「折り紙ある？」

４Ａ児　「ない…」

５Ａ児　「こっち！」

５Ａ児は保育室へ走っていき，４Ａ児はできあがった射的のゴムを伸ばしては離すことを何回か繰り返しながら，ゆっくりと保育室へ向かった。４Ａ児は保育室で折り紙をみつけ，玉をつくりはじめた。玉ができあがると，玉を入れて２回飛ばしてみたがうまく飛ばない。

５Ａ児　「もっと思いっきりがいい。もっと思いきり・・・・ぱーんて！」

と言いながら，飛ばして見せた。５Ａ児が飛ばすと，玉は勢いよく飛んでいく。玉を拾うと４Ａ児に手渡し，４Ａ児は試し始める。５Ａ児は玉が飛ぶ方向に移動してその様子を見ている。

５Ａ児　「思いっきり強くね」

４Ａ児が飛ばしてみると，ポヨンとすぐそばに落ち，やはりうまくいかない。４Ａ児は５Ａ児の顔をじっと見つめるが，５Ａ児は自分の遊びを思い出したようで，製作コーナーに走っていった。４Ａ児はうまく飛ばないことに苦戦しながら年長児が集まっているテラスの的の前へ移動し，何度も飛ばすことを繰り返していた。ようやく一度勢いよく飛ぶと，それまでくもっていた表情が初めて嬉しそうな表情になり，射的を手に持ち自分達の基地へ走っていった。

考察

課題

・４Ａ児が射的をつくりたがっている　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・４才児に射的をつくってあげたり，飛ばし方を教えてあげたりする
・４才児の思いを尊重しながらかかわる
・４才児がどこまでできるか見守りながらかかわる

学んでいたと思われること

・困っている年下児が頼ってくれる嬉しさ（５Ａ児）　年長児としての自信
・困っている年下児を助けてあげることができた（５Ａ児）　友達（年下児）に力を貸す
・困った時やうまくいかない時，自分の思いを伝えると年長児が助けてくれる（４Ａ児）
力を貸してくれる年上児

教師のかかわり

・４Ａ児が５才児とかかわることができるよう，思いを伝えることを促したり一緒に場に参加したりする
・５Ａ児が年下児とどのようにかかわるか，どこまでかかわるかは任せることにして見守る

（もし４Ａ児の思いが実現しない時には教師がかかわろうと思っていたが，５Ａ児はうまく飛ばすコツまで伝え，その後４Ａ児は自分で飛ばすことができ満足感を感じることができた。）

11月12日（木）　「違うよ，水色グループのだよ」

一人のアイディアをグループで一緒に取り組んで解決

クラスの幼児が柿の木の上の方に柿がなっているのを見つけたことから，柿をとって食べたいと言う話になった。そこで，４人組のグループで柿を取る方法を相談して取り組む「柿とりプロジェクト」として，クラス全員で取り組むことにした。柿は地上から４メートル程上になっており，木に登っても手の届かないところにある為，各グループが道具と方法を考える。教師は危険の無いようにアドバイスしながらも，それぞれが考えた方法を大切にしたいと思い取り組んだ。６グループ中，最も早く準備ができた水色グループが最初にチャレンジすることになった。

水色グループの５Ａ児，５Ｂ児，５Ｃ児，５Ｄ児は，５Ａ児が家でつくってきたティッシュペーパーの空き箱をつなげてつくったものに，園にある虫取り網を先端につけた道具を使い，巧技台を５段重ねた上に登って取る作戦で，５Ａ児がリードしてこれまで進めてきた。網は落ちてきた柿をキャッチするためにつけたという。柿がなっている真下に巧技台を積み重ね，その上に５Ａ児が登る。５Ｂ児が５Ａ児に道具を渡した時，台が揺れたので５Ｄ児が巧技台を支え，５Ｃ児や５Ｂ児も同じように支えた。教師は幼児の近くで安全面に気を配りながら見守っていた。最初は柿を揺するだけだったが落ちてこないので，見ていた他のグループの友達が「引っ掛ればいいよ！」と言い，５Ａ児は虫取り網を上手く柿の実に引っかける。そしてそのまま下に引っ張るが，柿の実が枝から離れない。台を支える３人に応援されながら，５Ａ児は力を入れ枝を揺らして何度も柿を下に引っ張るが，そのうちガムテープが剥がれて網がティッシュペーパーの箱から取れてしまった。

５Ｂ児　「あーあ，壊れてしまった」

５Ａ児　「直してもう一回やろう！ガムテープ！」

５Ｂ児　「でももう次のグループと替わらないと…」

５Ａ児は走ってガムテープを取りに行く。５Ｄ児や５Ｃ児は道具が壊れてチャレンジが失敗してしまったことを残念に思っている様子である。５Ａ児が戻ってきてガムテープで虫取り網をつけ始めると，次に待っていたオレンジグループの５Ｅ児や５Ｆ児が「次私達の番だよー」と言い始め，それを聞いた５Ｂ児，５Ｄ児，５Ｃ児は交替した方がいいと思っている様子である。すると５Ａ児が５Ｆ児に「お願い！あと１回だけチャンスちょうだい！」と伝えた。５Ｆ児は「いいよ！」と答え，教師が確認すると５Ｅ児らも良いと言う。そこで，５Ａ児がもう一度台に登り，同じグループの３人が台を支える。柿の実に網を引っ掛け，何度も枝を揺するのを台を支えている３人が見守る。すると，網を引っ掛けていた実とは別の柿の実が落ちてきた。「うお！やったー！」と柿の実を拾って喜ぶ水色グループの４人。すると，５Ｂ児が「５Ａ児くんが取ったんだから，５Ａ児くんの柿だよ」と言った。５Ａ児は「違うよ，水色グループのだよ」と答え，「狙ってたのと違うけど，すごい！」と喜んでいた。

考察

課題

・自分たちの考えた方法で柿をとりたい　**達成課題**

主体的・協同的な姿

・台を押さえたり，台に登っている友達に網を渡したりと，みんなで協力して柿を取る

・場の状況を考えて行動する

教師のかかわり

・安全に取り組むことができるよう配慮する

・自由な発想を大切にする

学んでいたと思われること

・目的に合った方法を考えること　思考力

・相手に交渉する良さ　コミュニケーション力

・役割を見つけて行動すること　役割

・４人でやり遂げることのできた喜び　達成感

柿とりプロジェクトの中での様子である。

１１月１２日（木）１回目

赤グループは前日に５Ａ児が思いついたボールを投げて柿に当てて取る，という方法でチャレンジするようだ。５Ａ児は「僕達は女の子が柿をキャッチする担当で，男の子はボールを投げる担当にした」と意気込んでいる。巧技台を２段重ね，その上に乗って真上の柿を目がけて５Ａ児がボールを投げるが，届かない。何度か挑戦した後，５Ｂ児と交替する。５Ｂ児が何度目かに投げたボールが柿のすぐ横に命中すると，５Ｃ児が「わぁ！あのてっぺんの柿ある木まで届いた！でも，もうちょっと横だったなぁー」と話したり，５Ｂ児の様子を見た他の３人が「５Ｂ児くんうまい！」と喜んだりした。結局全員投げたが，柿に当たることは無かった。保育室に帰ってくると５Ｂ児や５Ａ児が次は巧技台を高くすると話し，５Ｃ児や５Ｄ児も賛成していた。

１１月１４日（土）２回目

巧技台を１段増やし３段にしてボールを投げる。高くなった分，不安定になり，５Ｃ児や５Ｄ児は「グラグラして怖い」と高く投げることができなかった。５Ａ児や５Ｂ児が投げたボールは何度か柿には当たるのだが，柿は落ちてこなかった。

保育室に戻ってくると，次はどうしようかと自然と話し合いが始まった。

５Ａ児　「ねえ，みんな。じゃあもっと高くしよう！」

５Ｂ児　「でも，もっと高くしたらもっとユラユラするから，投げれなくなるよ」

５Ｃ児　「そうや。それに私小さいし，５Ａ児くんと５Ｂ児くんと５Ｄ児ちゃんが投げればいいよ。５Ｂ児くんうまいし」

５Ａ児　「でももっと高くしないと当たっても落ちないし…」

４人は「うーん…」と皆黙りこんでしまった。しばらく黙り込んでいたので，教師は今の状況を確認することで考えるきっかけとなってほしいと思い，話しかけた。

教師　「困ってるみたいだね。みんなは何に困ってるの？」

５Ａ児　「巧技台を高くしたいけど，でも高くしたらボールが投げられなくなるから困ってる」

５Ｄ児　「高くしたら危ないもん」

教師　「どうして高くしたいの？」

５Ｂ児　「だってもっと強く投げないと柿落ちてこないもん」

教師　「なるほどね。でもこれ以上高くはできないのか。どうしようねぇ」
「ボールを使うっていうのは，（次も）変わらない？」

５Ａ児　「そうだ！いいこと思いついた！先生，もっとボールある？」

５Ｂ児　「そうや，ボール変えればいいんだ」

教師　「あるよ，一緒に見に行く？」

４人は教師に付いていき，倉庫でボールを見ながら選んでいる。

５Ｄ児　「大きいのにしようよ」

５Ｂ児　「えー。投げにくいよ」

５Ａ児　「じゃあ小さいのにしよう」

教師　「小さいのも２つあるよ？」
教師は小さくて軽いボールと，小さくて重いボールの２つを見せた。
５Ｂ児　「重い方が強いと思う」
５Ｃ児　「投げれるかな？」
その場で５Ｂ児と５Ａ児が何度か投げてみる。
５Ｃ児　「うわ！結構飛ぶんじゃない？」
５Ｂ児　「これならできそう！」
投げることができそうだという結論になり，小さくて重いボールを投げるということになった。

１１月１９日（金）３回目
巧技台を３段積んで，その上から５Ｂ児と５Ａ児が交替しながら小さくて重いボールを投げる。柿に何度も当たるのだが，最後まで柿は落ちてくることがなかった。「当たるんだけどなぁー！」と４人は悔しがっていた。

考察

課題

・ボールを柿に当てて柿を落としたい　**達成課題**

主体的・協同的な姿

・４人で同じ目的をもって取り組む
・うまくいかない時に方法を変えて試す
・自分なりに考えをもち，友達と伝え合う

教師のかかわり

・危険に配慮しながら活動を見守る
（巧技台に登ってボールを投げている時，教師は常に側で安全面へ配慮しながら見守っていた。）
・（下線部）今までの経緯や課題を確認することで，次の考えが生まれるよう促す
（技台をもう高く積むことはできないという状況を確認し，その他のところを工夫することに目を向けるとよいのではないかと考え援助した。ボールを投げて取ることにこだわりたいのか，ボールを投げる方法以外の方法を考えようとしているのかを確認しようと尋ねたことが，高さではなく投げるものを変えるという発想きっかけになったと思われる。）

学んでいたと思われること

・失敗しても次のことを考えて取り組む　試行　失敗体験
・友達の考えを理解し，受け入れる　他者理解
・自分や友達のできることの違いがわかる　客観性
・同じ目的に向かって友達と活動する楽しさ　同じ目的
・目的を達成するために自分のできることを考え行動する　役割

11月20日（金）　「２つに分かれればいいんじゃない？」　友達と分担して解決

５才児の保健当番４人が登園後の朝の時間に，保健室へ来ていつものように当番活動を始めようとしていた。その日は参観日で，当番の仕事を早く終わらせて保育室へもどろうと少し焦っている様子が見受けられた。５Ａ児は，手洗い場の掃除に使うスポンジを入れてある入れ物を持って４才児の保健室へ行こうとした。それを見た５Ｂ児が提案をした。

５Ｂ児　「それじゃあ，２つに分かれればいいんじゃない？」

教師　「どういうこと？」

５Ｂ児　「全員で行ったら時間がかかるから，お休み調べの人と手洗い場の掃除の人に分かれてすればいい」

５Ｃ児　「えっ？」

５Ｂ児　「半分にわかれてさぁ。２人ずつで。そうすれば早く終わるんじゃない？」

５Ｃ児　「いいね」

教師　「５Ａ児くんを呼んで来ないとね。先に行ったみたい・・・」

５Ｄ児　「呼んでくる」と言って一人で先に行ってしまった５Ａ児を呼び戻した。

教師　「今，５Ｂ児くんが保健当番のやり方を考えて，言ってくれたんだけどみんなでどうするのか考えてみて」

５Ｂ児はもう一度，早く終わるための新しい方法をみんなに話した。

５Ａ児　「(そのやり方で）いいよ」

５Ｄ児　「うん」

教師　「今まで，そのやり方でしたことはないけど，やってみる？」

みんなは「うん」とうなずく。

５Ｃ児　「私と５Ｄ児ちゃんでこれ（お休み調べ）するから」

５Ｂ児　「じゃあ，５Ａ児くんと一緒に」

教師は，この方法でどのくらい時間が短縮されるのか時計を見ながら，当番活動を見守った。

５Ｃ児　「終わった！」

５Ｄ児　「もう終わった！」

教師　「手洗い場の掃除はまだ終わっていないみたいだよ。まだもどっていないから」

しばらくして，５Ｃ児は「手伝ってくる」と，５Ｃ児の後を追って５Ｄ児も追いかけて行った。

廊下に出たところで５Ｂ児と５Ａ児が保健室に向かってくるのが見え，４人は保健室へ道具を戻しに来た。

教師　「すごい！今日は，いつもより早く終わったね。いつもの半分の時間だったよ」

５Ｃ児　「やったぁ！」

みんなは「これで，保健当番を終わります」といつもより，大きな声で言うと嬉しそうに保育室へもどって行った。

考察

課題

・当番の仕事を早く終わらせたい　**解決課題**

主体的・協同的な子どもの姿

・どうしたらいつもより早く当番活動が終われるか考え，提案する姿（５Ｂ児）
・友達の提案を理解し，やってみようとする姿（５Ｃ児）
・友達の提案を受け入れ，やってみようとする姿（５Ａ児・５Ｄ児）
・まだ終わっていない友達を手伝いにいこうとする姿（５Ｃ児・５Ｄ児）

教師のかかわり

・５Ｂ児の考えをみんなに話すように促し，広める
・結果がどうだったのかわかるように当番活動にかかった時間を知らせる

学んでいたと思われること

・やり方を変えてやってもいいこと　発想の転換（５Ｃ児・５Ｄ児・５Ａ児）
・自分の考えを受け入れてもらえた嬉しさ　自己有用感（５Ｂ児）
・友達と新しいやり方で友達と分担して行い，早く終わることができた喜び　満足感

1月20日（水）　劇の練習にて　　友達の気持ちを考え話し合って解決

表現会で行う劇の練習が始まった初日，１人で敵役のドラゴンを演じる５Ａ児の出番が来たが，浮かない表情で動けないでいる。教師は，どうしたらよいか分からないのだろうと考え，モデルを示そうと５Ａ児の役を代わりに演じることにした。話が進み最後の場面になったが，５Ａ児は動かない。

５Ｂ児　「５Ａ児くん，どうしたの？」

５Ｃ児　「だいじょうぶだよ，５Ａ児くんならできるよ」

５Ｄ児　「失敗してもいいんだよ，やってみてよ」

５Ａ児はうつむいたまま，動かない。その５Ａ児の様子を見て，幼児は誰からともなく座り始めた。

５Ｅ児　「やりたくないんじゃない？」

５Ｄ児　「緊張してるんじゃないの？」

５Ｂ児　「やりかたがわからないんじゃない？」

みんな５Ａ児の様子を伺っているが，５Ａ児は反応しない。少し間があった後，教師が尋ねた。

教師　「みんなが今言ってたのは，そうかなぁって思うことなんだよね。５Ａ児くんはどう思っているんだろうね」

５Ａ児は教師の顔を見て少し口を動かしたが言葉は聞こえなかった。だが少しの沈黙の後に話し始めた。

５Ａ児　「……ドラゴンあんまりいなかったから」（役を決める時ドラゴン役が少なかった）

声は小さかったが，近くで聞いていた５Ｆ児が復唱したことでみんなが聞くことができた。

教師　「今は，どうしたいの？」

５Ａ児　「最初は５Ｇ児ちゃんがやるって言ってたけど，他（の役）になったから…」

５Ａ児　「（５Ｇ児ちゃんがいたから）できるかなって思った」

５Ｇ児　「やっぱりドラゴンやる」

５Ｂ児　「ほんと？でも５Ｇ児ちゃんも我慢してるんじゃない？」

５Ｇ児　「我慢してやる」

５Ｂ児　「我慢しなくていいんだよ？」

５Ｈ児　「本当にやりたい人がやればいいんだよ」

５Ｅ児　「みんなに聞けばいいんじゃない？ドラゴンやりたい人ー」

５Ｇ児だけが手を挙げる。

５Ｃ児　「本当にやりたいの？」

５Ｇ児　「やりたい」

教師　「さっきは我慢するって言ってたけど…」

５Ｇ児　「やっぱりやりたい。１人じゃ大変そうだから」

教師　「５Ａ児くんが大変そうってこと？それは我慢じゃない？」
５Ｇ児　「うん。私ドラゴンできる」
５Ｇ児は真剣な表情で言い切った。みんなそれを聞いて，「よかったよかった」という雰囲気になった。
５Ａ児は変わらず動かないでいた。一段落したあと，教師が尋ねた。
教師　「次はどうすればいい？」
５Ｉ児　「５Ａ児くんに聞かないとダメだと思う」
５Ｂ児　「５Ａ児くん，どう？」
５Ａ児　「それでいい」
昼食の時間となったので練習は終わりにした。場をかたづけながら５Ａ児は明るい表情で５Ｇ児とちょっかいを出し合って遊んでいた。

考察

課題

・５Ａ児が動かないから劇が進まない　**解決課題**

主体的・協同的な姿

・５Ａ児が動けない理由を考え，理解しようとする
・話し合う場をつくる
・５Ａ児の気持ちや場の状況を考えて，ドラゴン役をかってでる（５Ｇ児）
・５Ａ児の気持ちを確認する（５Ｉ児）
・５Ｇ児の気持ちを確認する

教師のかかわり

・幼児同士の話の様子を見守りながら，様子に応じて話を整理したり確認したりする

学んでいたと思われること

・相手の気持ちを察すること　洞察
・心配して声をかけてくれたり，解決してくれたりする友達がいること（５Ａ児）　安心感
・問題が解決し，また劇ができる嬉しさ　満足感